

総務委員会・分科会会議記録

- 1 期 日 令和 8 年 3 月 17 日（火）
午前 9 時 24 分 開会
午後 1 時 55 分 閉会
- 2 場 所 第 1 委員会室
- 3 出席委員 委員長 芹澤 正志
副委員長 太田 智博
委員 青柳 順子、須山 泰一
竹中 理、福田 嗣久
米田 達也
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 傍聴者 なし
- 8 事務局職員 主幹兼議事調査係長 山本 雅彦
- 9 会議に付した事件 （別紙のとおり）

総務委員長・分科会長 芹澤 正志

総務委員会（分科会）次第

2026年3月17日（火） 9：30～
第1委員会室

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 付託・分担案件の審査について〈2頁〉
 - ア 委員会審査
 - イ 分科会審査
 - (2) 意見・要望のまとめについて
 - ア 委員会意見・要望のまとめ
 - イ 分科会意見・要望のまとめ
 - (3) 閉会中の継続審査申出について〈6頁〉
- 4 その他
- 5 閉会

令和8年第2回豊岡市議会（定例会）議案付託表

【総務委員会】

- 第2号議案 豊岡市過疎地域持続的発展計画の策定について
- 第3号議案 豊岡市辺地総合整備計画の策定について
- 第4号議案 財産の無償貸付の変更について
- 第7号議案 豊岡市行政手続条例の一部を改正する条例制定について
- 第8号議案 豊岡市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について
- 第23号議案 令和7年度豊岡市管理会財産区特別会計補正予算（第1号）
- 第34号議案 令和8年度豊岡市管理会財産区特別会計予算

予算決算委員会付託議案に係る分科会分担表

【総務分科会】

- 報告第2号 専決処分したものの承認を求めることについて
- 専決第2号 令和7年度豊岡市一般会計補正予算（第10号）
- 第15号議案 令和7年度豊岡市一般会計補正予算（第11号）
- 第26号議案 令和8年度豊岡市一般会計予算

総務委員会（分科会） 審査日程表

審査日程	所管（出席対象）部署	審査内容
3月16日（月） 13:00～ 第1委員会室	【議会事務局】 【市長公室】 経営企画課、 DX・行財政改革推進課 【行政管理部】 財政課、資産活用課 【総務部】 総務課、人事課 【市民部】 税務課 【会計管理者】 会計課	【委員会】 《議案》 ＜説明、質疑、討論、表決＞ ○第2号議案 ○第3号議案 ○第4号議案 ○第7号議案 ○第8号議案 【分科会】 《令和7年度一般会計補正予算議案》 ＜説明、質疑＞ ○報告第2号 ○第15号議案
3月16日（月） 14:00～ 第1委員会室	【危機管理部】 危機管理課 【くらし創造部】 地域づくり課、 多様性推進・ジェンダーギャップ対策課 【各振興局】 地域振興課（総務担当） 【消防本部】 総務課、警防課 【選管監査委員事務局】	【委員会】 《議案》 ＜説明、質疑、討論、表決＞ ○第23号議案 【分科会】 《令和7年度一般会計補正予算議案》 ＜説明、質疑、賛否の確認＞ ○報告第2号 ○第15号議案
	※委員のみ	《委員会審査意見・要望のまとめ》 《分科会審査意見・要望のまとめ》
3月17日（火） 9:30～ 第1委員会室	【議会事務局】 【市長公室】 秘書広報課、経営企画課、 DX・行財政改革推進課 【行政管理部】 財政課、資産活用課 【総務部】 総務課、人事課 【会計管理者】 会計課 【くらし創造部】 地域づくり課、 多様性推進・ジェンダーギャップ対策課	【分科会】 《令和8年度一般会計予算議案》 ＜説明、質疑＞ ○第26号議案
3月17日（火） 13:00～ 第1委員会室	【危機管理部】 危機管理課 【市民部】 税務課 【各振興局】 地域振興課（総務担当） 【消防本部】 総務課、予防課、警防課 【選管監査委員事務局】	【委員会】 《令和8年度管理会財産区特別会計予算議案》 ＜説明、質疑、討論、表決＞ ○第34号議案 【分科会】 《令和8年度一般会計予算議案》 ＜説明、質疑＞○第26号議案

審 査 日 程	所 管（出席対象） 部 署	審 査 内 容
	※委員のみ	<賛否の確認>○第26号議案 《委員会審査意見・要望のまとめ》 《分科会審査意見・要望のまとめ》

※ 総務分科会での説明は、基本的に①財政課(全体概要含む)、②その他の課(組織順)の流れでお願いします。

2025年度 豊岡市議会総務委員会名簿

2026年3月17日(火)

【総務委員】

委員長	芹澤正志
副委員長	太田智博
委員	青柳順子 須山泰一 竹中理 福田嗣久 米田達也

7名

【説明員】 ※出席者に着色しています

議会事務局	
議会事務局長	坂本英津子
議会事務局次長	佐田美佐樹
市長公室	
市長公室長	谷口雄彦
次長兼秘書広報課長	藤本充
秘書広報課参事	栗垣敦子
経営企画課長	真狩直哉
D X ・ 行財政改革推進課長	橋本直紀
行政管理部	
行政管理部長	野村亮太
次長兼財政課長	長谷川幹人
財政課参事	宇野友喜
資産活用課長	植田孝志
危機管理部	
危機管理部長	畑中聖史
危機管理課長	松岡久雄
総務部	
総務部長(会計管理者)	宮代将樹
総務課長	大形昌民
総務課参事(文書法制担当)	山本慎二
次長兼人事課長	岡亮吾
人事課参事	植田真美
くらし創造部	
くらし創造部長	谷岡慎一
地域づくり課長	宮田裕史
多様性推進・ジェンダーギャップ対策課長	原田紀代美
多様性推進・ジェンダーギャップ対策参事	道下一

市民部	
税務課長	塚本尚見
城崎振興局	
地域振興課長	木村弥江
竹野振興局	
地域振興課長	小林昌弘
日高振興局	
地域振興課長	吉田政明
出石振興局	
地域振興課長	三宅徹
但東振興局	
地域振興課長	大岸勝也
会計課	
会計課長	西村嘉通
会計課参事	高木智佳子
消防本部	
消防本部参事兼総務課長	井崎博之
消防本部参事兼警防課長	中地修
予防課長	田中陽一
	中尾浩
選挙管理委員会・監査委員事務局	
選管監査事務局長	中奥実
説明員計 33名	
【担当事務局職員】	
議会事務局主幹	山本雅彦

午前 20名
午後 13名

計 41名

2025 年度 総務委員会の重点調査事項

- 1 基本構想と市政運営について
- 2 地方創生施策の推進について
- 3 移住定住・人口減少対策について
- 4 地方財政及び行財政改革について
- 5 公共施設マネジメントについて
- 6 自治体DXの課題と推進について
- 7 消防行政の推進について
- 8 地域コミュニティの推進について
- 9 ジェンダーギャップ解消の推進について

午前9時24分開会

○委員長（芹澤 正志） 皆さん、おはようございます。

それでは、皆さんおそろいになられましたので、ただいまから総務委員会を開会いたします。

今日は、昨日に比べて少し暖かく、晴天ということで、何か気分よく、朝、こちらに出勤させてもらいました。

2日目になりますけれども、最後まで何とぞよろしく願いいたします。

それでは、本日は、当委員会に付託されました第34号議案の説明、質疑、討論、表決及び当分科会に分担されました第26号議案の説明、質疑、賛否の確認を行い、その後、意見・要望のまとめを行う予定としています。

委員の皆さんは、SideBooks上のフォルダー、ホーム、総務委員会、総務20260317が本日の委員会のフォルダーです。そこに本日の委員会の資料を配信しております。

本日の当局出席者についてであります。審査日程表に合わせて、午前、午後に分けて、所管部署の職員に出席いただくよう要請しております。

委員の皆さん並びに当局職員の皆さんは、質疑、答弁に当たりましては、要点を押さえ、簡潔明瞭に行っていただきまして、スムーズな議事進行にご協力をお願いいたします。

なお、委員会及び分科会での発言は、委員長、分科会長の指名の後、マイクを使用して課名と名字を名のってから行っていただきますようお願いいたします。

ここで委員会を暫時休憩します。

午前9時25分 委員会休憩

午前9時25分 分科会開会

○分科会長（芹澤 正志） 分科会を開会します。

これより3の協議事項、1の付託・分担案件の審査について、イの分科会審査に入ります。

まず、第26号議案、令和8年度豊岡市一般会計予算を議題といたします。

第26号議案中、当分科会に審査を分担されたのは、所管事項に係る歳入歳出予算、債務負担行為、地方債、一時借入金及び歳出予算の流用についてであります。

本案につきましては、予算説明書の説明欄に所管課が明記されておりますので、事業名と予算額のみを説明いただく必要はありません。十分な質疑時間を確保するためにも、当局には、新規事業や前年度から大きな変更のあった事業及び主要事業等を主として説明いただきますよう依頼しております。

当局の説明は、まず財政課から、全体概要を含めて説明いただきまして、その後、組織順で、各担当課から歳出及び歳入等を一気に説明願います。

質疑は、説明が終わった後に一括して行います。

当局の皆さんは、説明される際には、説明するページを委員が開いたかどうか確認しながら、ゆっくり説明してください。

それでは、順次説明願います。

財政課から、長谷川部次長、お願いします。

○行政管理部次長（長谷川幹人） 3ページをご覧ください。第26号議案、令和8年度一般会計予算についてご説明いたします。

第1条で、歳入歳出予算の総額を517億5,000万円と定めております。

第2条で債務負担行為の、第3条で地方債の限度額などを定めております。

第4条で一時借入金の借入れの最高額を60億円と定めております。

第5条は、歳出予算の流用ができる場合を定めたものでして、給料、職員手当、共済費に係る予算に不足が生じた場合に、同一款内での各項間の流用をお願いするものでございます。

9ページをご覧ください。第2表、債務負担行為です。7事項につきまして、限度額1億4,152万2,000円を計上しております。

10ページから12ページにつきましては、第3表、地方債です。30事業、限度額22億3,710万円を計上してるといったことでございます。

続きましては、資料ファイルをご覧ください。資

料ファイル、一般会計の概要につきまして、ナンバー4、2026一般会計予算説明資料ナンバー4というのをご覧ください。

8ページをご覧ください、8ページでございます。こちら、一般会計の債務負担行為の調書を掲載しております。これまでに議決いただいております127事項につきまして記載をしているということで、14ページの計の欄をご覧ください。中央のやや右の列、当該年度以降、これは2026年度以降ですが、その支出予定額の合計、これにつきましては78億2,383万3,000円ということにしております。

15ページにつきましては、当該年度、2026年度に新たに債務負担行為を設定するもの、7事項を記載をしておるといったことでございます。

続いて、16ページ、17ページをご覧ください。地方債現在高の見込みに関する調書でございます。ちょっと見にくいですが、3列目の前年度末、これは2025年度末なんですが、現在高見込額の合計につきましては、351億1,768万円、当該年度中、これは2026年度中ですが、起債見込額としまして22億3,710万円、当該年度中の元金償還見込額、これが48億2,426万3,000円、差引きの当該年度末の現在高見込額につきましては325億3,051万7,000円ということにしております。

18ページから21ページが歳入の概要です。

18ページをご覧ください。一番上の段、1款市税につきましては、前年度と比較しまして2億978万円、2.2%の増ということで、99億3,970万3,000円というふうにしております。理由としましては、主な内容欄をご覧ください。市民税（個人）ですね、これにつきましては、収納率、これが実態に合わせるということで、収納率を若干上げたといったことと、あと固定資産税、これやっぱり償却資産ですね、こういったものが増収といったことでこのような金額になるというふうに想定をしているということでございます。

次に、12の地方交付税です。主な内容欄、左側、

普通交付税につきましては、国の地財計画では、地方交付税総額が6.5%上がるといったことを言っています。ただ、この6.5%の中には、県のほうですね、都道府県の分の医療費の無償化の部分も含まれてるといったことですので、市町村についてはちょっとよく分からない状況ですので、非常に慎重に積算をしているといった内容でございます。

まず、人事院勧告に伴う給与体系に伴う人件費増額分が措置されるといったことですので、これは増額、プラスに働きます。一方、地方債現在高が減ってきますので、その分、交付税算入が減ってくるということになりますので、これがマイナス方面。あと、市税も増収になります。ただ、これが、市税は増収になるんですが、これもマイナス要因といったことです。ということから3億の減、2%の減ということで149億円を見込むということになります。繰り返しますが、これはあくまでも積算した想定内の金額ですので、単に減ったのではなくて、こういった積算によって減額になったといった内容でございます。

右側の特別交付税、これにつきましては除排雪経費の増額を見込みまして1億2,000万円、5.5%の増、23億2,000万円としております。

次に、14、分担金及び負担金です。保育料の軽減に伴って、特定教育・保育施設利用者負担金、いわゆる保育料が減額になるといったことがありますので、3,545万4,000円、24%の減ということにしております。

16、国庫支出金です。地方創生臨時交付金の減額、これ、定額減税補足給付金等が減額になったということと、小中一貫教育の竹野学園の整備、これが終了したといったことがありますので、5億2,905万、8.5%の減というふうにしております。

20ページ、21ページをご覧ください。17、県支出金です。小学校給食の無償化に伴う給食費負担軽減交付金、あと、小学校のタブレット更新ですね、公立学校情報機器整備事業費の増額などによりまして、2億5,218万6,000円、7.8%の増というふうにしております。

18、財産収入です。これにつきましては、基金の積極的な債券運用、預金利息の上昇などによりまして、8,577万円、68.2%の増というふうにしております。

19、寄附金です。好調なふるさと納税などによりまして、1億8,780万円、12.2%の増というふうにしております。

20、繰入金です。公立豊岡病院組合の貸付けに財政調整基金から10億円、地域振興基金から9億1,350万円を繰り入れることなどによりまして、27億1,101万5,000円、92.8%の大幅な増といったことで、結果、56億3,244万4,000円というふうにしております。

なお、この財調につきましては、先ほどの豊岡病院の貸付けのほかに、一般財源の収支不足として17億円も別に繰入れをしてるといったこととなります。

22、諸収入です。小学校給食無償化に伴う学校給食徴収金、これは親御さんの負担ですね、これや旧豊岡清掃センター移転補償金の減額などによりまして、3億7,509万1,000円、18.4%の減というふうに見込んでおります。

23、市債です。小中一貫校竹野学園整備、ウェルストークの長寿命化工事の完了などによりまして、18億6,030万円、45.4%の減ということで、22億3,700万円というふうにしております。

続きまして、22ページから25ページ、歳出の概要でございます。

まず、22ページ、総務費です。基金管理費、庁舎管理費、コミュニティセンター管理費、あと、選挙費の減額などによりまして、4億8,044万4,000円、5.4%の減というふうにしております。

3、民生費です。こども医療費助成事業費、障害者自立支援給付事業費、児童保育運営事業費、生活保護措置費の増額などによりまして8,791万2,000円、0.6%の増というふうにしております。

4、衛生費です。公立豊岡病院の負担金と、同じく組合への貸付金、旧清掃施設管理費の増額などに

よりまして、27億4,286万2,000円、49.6%の増というふうにしております。

6、農林水産業費です。農業施設管理費、史跡調査事業費の増額などによりまして、7,848万5,000円、4.9%の増というふうにしております。

24ページ、25ページをご覧ください。7、商工費です。城崎観光施設管理費、これはさとの湯の建て替えの分です。あと、道の駅「神鍋高原」整備事業費の減額などによりまして、3億7,751万2,000円、24.3%の減というふうにしております。

8、土木費です。中央公園整備事業費、住宅管理費の減額などによりまして、1億7,846万8,000円、3.3%の減というふうにしております。

9、消防費です。情報通信設備管理費、あと、豊岡消防署消防設備・施設整備事業費、これ、ポンプ車の更新ですが、これらの増額などによりまして、6,093万2,000円、2.9%の増というふうにしております。

10、教育費です。小中一貫校整備事業費であったり、学校施設整備事業費、これは三江小学校です。あと、図書館管理費の減額などによりまして、11億1,581万6,000円、21.2%の減というふうにしております。

12、公債費です。地方債現在高の減少に伴いまして2億3,652万4,000円、4.5%の減というふうにしております。

最後にですが、人件費、人件費につきましては、議会費を除いて記載はしていません。ただ、実際には人件費全体で約2億円ですね、2.2%の増というふうになっております。

30ページから33ページ、ご覧ください。投資的経費の一覧を記載しております。

33ページ、合計欄でございます。普通建設事業の合計額は42億6,625万7,000円、前年度は60億281万4,000円ですので、17億3,655万7,000円、28.9%の減というふうになっております。

これ、今年度、2025年度は、竹野学園であっ

たり、三江小学校、あと、竹野庁舎、日高庁舎、こういった長寿命化工事が多くあったということで、2025年度はそれが多かった。今回、2026年度は、その端境期といいたしましうか、ちょっと少ない金額にはなってます。ただ、2027年度以降です、ね、2027年度以降については、文化会館整備があったり、あと、学校の長寿命化、こういうので、また金額が大きくなってくるといったことですので、2026年度はちょっとたまたま少ない金額だというふうに我々としては捉えています。

34ページをご覧ください、34ページです。一般会計地方債の内訳です。主な起債の種類でございますが、34ページ1段目、公共事業等債につきましては3億4,460万円。

35ページ、1段目の緊急防災・減災事業につきましては2億2,190万円、その下の段、公共施設等適正管理推進事業債につきましては5億620万円というふうになっております。

続いて、36ページ、上から3段目、辺地対策事業債につきましては4,980万円、その下の段、過疎対策事業債については4億5,100万円。

37ページ、下の段、過疎対策事業債、これはいわゆる過疎ソフトでして、6,070万円を予定しております。この辺地、過疎につきまして、昨日、ちょっとご質問ありました。実は総額が決まっております。辺地、過疎の総額、過疎につきましては、全国で約6,000億円、我々、一応要望はするんですけど、実際につくのが約8割から9割、2025年度は9割、それ以前は8割程度ですので、過疎を要望しても、全額つかないというのが実態といったことになります。

それとあと、過疎ソフトにつきましても、6,000万円でしたが、これも枠で決ままして、もともと二、三年前は1.5億円、枠が決まっていますので、今回、6,000万円ということで、もう半分以上になってるといったことですので、非常に有利な起債ではあるんですけど、それだけ皆さん人気がある。ですので、どうしても取り合いになっているのが実態でございます。

あと1点、書いてませんが、新しいまちづくりに活用してきました合併特例債です。合併特例債は載っていません。2025年度が発行の期限となっております。今年度で終了といったことになります。振り返ってみますと、2005年度から21年間で、建設事業に約430億円、基金発行に38億円、総額468億円を発行しまして、新たな豊岡市の姿を、形をつくってきたといったことになります。

一般会計の歳入歳出の概要については以上でございます。

続きまして、財政課分の説明をいたします。

予算書に戻っていただきまして、予算書の320、321ページをご覧ください。

2つ目の枠、12款公債費の市債元金と利子でして、まず市債元金です。48億2,426万3,000円で、前年度と比較して2億8,706万4,000円と、減というふうに順調には減らしてきてるといったことになります。

ただし、その下、市債利子です。市債利子につきましては5,166万4,000円の増といったことです。本来元金が減りますんで、利子も減るはずなんですけど、昨今の金利上昇に伴いまして、新発債、もしくは借換えにつきまして、今、利率を2.8%で計算します。数年前までは0.00何%ということです。もう一気に上がってまして、最近では約2%程度、場合によっては2.8ぐらいまで上がってくるのかなということで、ちょっと高めに、2.8%で見込んでいるため、この金利のほうが高くなると、増加するといったことになります。

322ページ、323ページをご覧ください。1つ目の枠、13款諸支出金の市債管理基金積立金です。ひょうごグリーン県民債として借り入れた5年満期一括償還、これの5,000万円について、償還のために毎年1,000万円ずつを積み立てるものでして、2023年度から2025年度までの3年間分、償還分の3,000万円を積み立てるといったものでございます。

なお、このひょうごグリーン県民債の共同発行につきましては、一定の成果を上げたといったことで

すので、２０２５年度、今年度を最終としまして、２０２６年度は参加しないというふうにしております。

続きまして、歳入です。財政課が所管しているものですが、戻っていただきまして、２０ページです。３枠目の２款地方譲与税から、２６ページ、２枠目の１３款交通安全対策特別交付金です。譲与税、各種交付金につきましては、それぞれ２０２５年度の決算見込みと２０２６年度の国の地財計画において、対前年度比伸び率から推計をしまして予算計上してるといった内容でございます。地方交付税、分担金及び負担金、財産収入、寄附金、繰入金、諸収入、市債などにつきましては、先ほど概要で説明したとおりでございます。

説明は以上でございます。

○分科会長（芹澤 正志） 続いて、議会事務局、佐田次長、どうぞ。

○事務局次長（佐田美佐樹） 議会事務局関係分の歳出予算につきまして、主なものを説明させていただきます。

予算書８１ページをお願いいたします。右側の説明欄で説明いたします。

まず一番上の人件費ですが、議員に係るものとしたしまして、２行目の議員報酬、それから少し下のほうになりますが、議員期末手当、議員共済組合負担金、非常勤職員公務災害補償保険料で、合計１億６，５８３万５，０００円となります。２０２５年度と比較しまして８７３万１，０００円の減額となります。要因は、昨年１０月の改選から、議員定数が２２名となり、これまでから２名減となったことによることと、議員共済組合負担金の負担率が下がったことなどによるものです。

次に、真ん中辺り、議会管理費です。合計１，８３６万円で、２０２５年度と比較いたしまして３００万６，０００円の減額となります。主な要因としたしましては、２０２５年度は、議員に貸与しておりますタブレット端末の５年ごとの更新に伴う委託料、備品購入費などや、議員改選の年度に作成しております議会活動報告書議会のあゆみの作成に

要する印刷製本費などを計上しておりましたが、来年度、２０２６年度は、それらの経費の計上が必要なくなるなどによるものです。

次に、下から１３行目になります議会運営活動費です。合計８９０万４，０００円で、２０２５年度と比較いたしまして４５万７，０００円の減額となります。主な要因としたしましては、先ほども申しましたが、２０２５年度は議員の改選の年でしたので、新しい議員の皆様に必要な物品等に係る需用費などを計上しておりましたが、来年度、２０２６年については、これらの経費の計上が必要なくなるなどによるものです。

また、全国市町村交流レガッタ大会が、２０２６年度は福島県の喜多方市で開催される予定でございます。そちらの参加旅費等につきましてもこちらに計上しております。

議会事務局の説明は以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 秘書広報課、藤本部長、どうぞ。

○秘書広報課長（藤本 充） 予算書の８５ページをご覧ください。上から２つ目の秘書渉外費です。本年度は、前年度と比較して７００万６，０００円の増となる１，３７２万５，０００円を計上しております。

新規事業としましては、今年の９月に５年間のリース期間が満了する市長公用車の更新に係る費用７２３万２，０００円を計上しています。昨今の自動車市場における深刻な供給不足、とりわけ特定車種の需給逼迫を受け、調達方法を精査いたしました。予算要求時点の調査では、リース調達の場合、抽せん方式が一般的となっており、年度内の調達さえも極めて不透明な状況にあったため、抽せんのない購入費用として計上をさせていただいております。なお、執行段階におきましては、最新の市場動向を注視し、リースと買取りのいずれが本市にとって有利かつ確実に調達できるかを比較検討し、柔軟に対応してまいりたいと考えています。

次に、８７ページをご覧ください。一番上の表彰栄典費です。本年度は、前年度と比較して２２８万

5, 000円の減となる94万5, 000円を計上しております。主な減額の要因といたしましては、前年度に執行いたしました市制20周年記念式典に係る経費200万円が、事業完了に伴い皆減となったことなどによるものです。

次に、89ページをご覧ください。下段の広報広聴事業費です。本年度は、前年度と比較して276万1, 000円の減となる2, 647万1, 000円を計上しております。主な減額の要因といたしましては、前年度に執行いたしました市公式LINEの機能強化に係る経費502万7, 000円が、事業完了に伴い皆減となったことによるものです。一方で、本年度は、新たに広報改善・情報発信強化業務として220万円を計上しております。差引きで282万7, 000円の減でございます。当該業務は、専門家の知見を活用し、主に市ホームページの階層整理や重複項目の統合、関連情報のリンクの集約などを行うことで、市民の皆様にとって見やすく、探しやすい情報発信体制の構築を目指すものでございます。

秘書広報課の説明は以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 経営企画課、真狩課長、どうぞ。

○経営企画課長（真狩 直哉） 経営企画課所管分について説明します。

95ページをご覧ください。下の枠、6行目からの企画調整費です。業務委託料で但東クロスプロジェクト関連業務を計上しています。本プロジェクトによってつくり上げたい将来像を実現するため、地域等と共にどういうことに取り組むかなどを網羅した計画づくりを行います。その計画づくりに伴走支援いただく人材を配置するものです。この計画がどういうものかという、この計画でもって2027年度以降、本プロジェクトにひもづく事業全体を対象に、国土交通省が推進している地域生活圏の補助金の採択を受けられるようにしていきたいというふうに考えています。

なお、2026年度の財源としては、県の「持続可能な生活圏」形成支援事業費補助金を予定してい

ます。

次に、131ページをご覧ください。真ん中辺り、地方創生推進費です。（「来てない」「ちょっと待ってくださいね」と呼ぶ者あり）はい。（「はい、どうぞ」と呼ぶ者あり）ここでは、官民共創推進事業、空飛ぶクルマ関連事業に係る経費を計上しています。官民共創推進事業では、庁内への官民共創風土をさらに醸成するための勉強会として、セミナー、ワークショップを実施します。講師謝礼、費用弁償を計上しています。

また、官民共創を推進するための支援業務を委託します。業務内容としては、各課が抱える課題の整理を支援、企業等への課題発信、勉強会で出てきた課題や各課が抱える課題に関する企業等との意見交換の支援、官民共創に関する助言などです。

次に、空飛ぶクルマ関連事業では、国等へのトップセールスに係る旅費、負担金として、コウノトリとめぐる空飛ぶクルマ社会実装プロジェクト推進協議会の会費、補助金として、空飛ぶクルマ社会実装促進事業補助金、仮称ですけれども、を計上しています。補助金は、兵庫県の空飛ぶクルマ実装促進事業補助金において交付決定を受けた事業者を対象に、市も随伴補助を行うものです。

なお、詳細につきましては、県と市とまだ現在調整中の段階であります。

続いて、歳入についてご説明します。41ページをご覧ください。一番下の枠、地域未来交付金、地域未来推進型です。昨年度までの新しい地方経済・生活環境創成交付金第2世代交付金に代わるものです。市が行う事業全てが人口減少対策につながるものとの考え方から、あらゆる分野の中から本交付金の対象となり得る事業を大きく3つの事業としてまとめ、国に現在申請しています。交付率は対象経費の2分の1です。

続きまして、47ページです。上の枠、持続可能な多自然地域づくりプロジェクト事業費補助金のうち、「持続可能な生活圏」形成支援事業費補助金のうち経営企画課分は191万8, 000円の2分の1、95万9, 000円です。これは歳出で説明

しました但東クロスプロジェクトでの計画づくりに対する補助金です。

続きまして、61ページをご覧ください。上から2つ目の枠、総務管理費寄附金の企業版ふるさと応援寄附金2,200万円のうち1,000万円を経営企画課分として計上しています。

説明は以上です。

○分科会長（芹澤 正志） DX・行財政改革推進課、橋本課長、どうぞ。

○DX・行財政改革推進課長（橋本 直紀） 歳出、歳入、債務負担行為の順に説明をいたします。

まず、歳出です。89ページをご覧ください。上から2つ目の事業、行革推進費です。行財政改革推進委員会開催2回分です。

次に、95ページをご覧ください。企画費の上段、企画調整費です。但東地域において、行政サービスの利用環境整備を目的に、商業施設にキオスク端末を設置します。事業用備品と消耗品など合わせて57万3,000円を計上しています。

次に、109ページをご覧ください。行政情報化推進事業費です。2025年度までは、各施設間ネットワーク用の光ケーブル借り上げ料を地域情報化推進事業費で別途事業立てしていましたが、2026年度からは、行政情報化推進事業費に統合しています。トータルでは、前年度と比較して3,700万円程度の減の2億6,139万3,000円で計上するものです。計上減の主な原因は、自治体情報システムの標準化、移行作業について、2026年度は、ベンダーのリソース不足のため、一旦休止の予定となっております。

そのほかでは、新規に対応するものもあります。サーバー仮想化基盤について、ウィンドウズサーバー2016のライセンスサポート期限を迎えるため、最新バージョンの2025に更新するものです。1,138万5,000円を計上しています。

そのほか、基幹系システム、ネットワーク、情報系パソコンなど、豊岡市役所のデジタル基盤を支えるためのハード、ソフトに関する経費を計上しています。

その下、DX推進事業費です。追加事業としては、総務省の地域活性化起業人制度を活用した民間人材の受入れについてです。民間企業の専門知識、業務経験、人脈、ノウハウを活用し、主に地域DXを推進していくことを目的に、2025年度から派遣型2名、副業型1名を既に受け入れていますが、次年度はさらにもう1名受け入れる予定です。副業型は、所属する企業の業務に従事しながら、副業として豊岡市の業務に従事いただくもので、月に4日以上20時間以上の従事、1回以上の来訪が条件です。

次に、129ページをご覧ください。最下段、市民との共創支援事業費43万4,000円です。オンラインで市民の皆様の声を聞く「シビックとよおか」及びリアルで市民の皆様の思いを聞くちいき×エールの開催に係る経費です。

これらのほかにDX行財政改革推進課では、豊岡スマートコミュニティ推進企業の事業推進に関連する予算を計上しています。

以上、職員の人件費を除く歳出予算の総額は3億54万7,000円です。

次に、歳入を説明させていただきます。41ページをご覧ください。最下段の地域未来交付金です。先ほどの説明と少しかぶるんですが、地域未来推進型のうち、27万2,000円は、市民との共創支援業務、オンラインで市民の皆様の声を聞く「シビックとよおか」及びリアルで市民の皆様の思いを聞くちいき×エールの開催、豊岡スマートコミュニティ推進事業費に充当しています。

次に、最下段のデジタル実装型のうち、27万3,000円は、先ほどご説明をした但東地域に設置するキオスク端末に係る交付金です。いずれも交付率は2分の1です。

次に、債務負担行為です。9ページをご覧ください。表の一番上、オラクル用仮想化基盤サーバー更新事業、限度額1,025万5,000円です。これは、現在使用しているオラクル専用サーバーの更新に要する費用です。このサーバーは、2020年度に導入しており、2026年度をもってハードの保守契約が満期を迎えることに加え、サーバーOS

のウィンドウズサーバー２０１６についても、サポート期限が２０２７年初頭となっています。この専用サーバーについて、切れ目なく、安定した運用及び業務遂行を続けるために、今回、債務負担行為を設定するものでございます。

説明は以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 資産活用課、植田課長、どうぞ。

○資産活用課長（植田 孝志） それでは、資産活用課に係る主な予算について説明させていただきます。

まず、歳出からです。予算書の８９ページをご覧ください。真ん中やや下のほうに公共施設マネジメント推進事業費として９４万７，０００円を計上しております。これは、公共施設マネジメントを進めていくための事務経費であり、前年度から約１，０００万円の減となっています。昨年度は、再編計画策定業務がありましたので、その業務分が減額となっています。

次に、９３ページをご覧ください。上から１０行目に基金管理費があり、資産活用課分としては、ページのちょうど真ん中辺りに公共施設整備基金積立金として６，５２２万４，０００円を計上しています。これは未利用土地の売却収入や利活用が決まった学校跡地の貸付収入を今後の公共施設の解体費や長寿命化工事などの財源にするために将来の備えとして基金に積み立てるものです。

次に、そこから１０行ほど下に財産管理費がございます。このうち資産活用課分の主なものとしては、まず一番下のほうに保守点検委託料として２，０８４万９，０００円があり、これは資産活用課のほうで一括計上しています包括管理業務の対象施設以外の施設に係るエレベーターや自動ドアなどの保守点検の費用です。

次に、９５ページをご覧ください。上から５行目に維持管理委託料として４９６万５，０００円があり、そのうち４８９万５，０００円が資産活用課分となります。これは、先ほどの保守点検料と同様に一括計上しています施設に係る夜間警備管理業務

や清掃管理として普通財産に係る草刈り業務の費用を計上しているものです。

その少し下に業務委託料として８６５万９，０００円があり、そのうち２９４万６，０００円が資産活用課分となります。これは、未利用地の売却に向けた測量業務の費用を計上しています。

そこから６行下に設置工事費として２００万円あります。これは、地区要望に基づく落石防止工事を予定しており、その費用を今年度新たに計上しているものです。

次に、そこから５行下に公共施設包括管理事業費として２億８，９９９万５，０００円を計上しております。前年度から３８６万５，０００円の減となっています。これは、５年契約を締結した公共施設包括管理業務の３年目に係る費用を計上しているものです。減額理由としては、包括管理に係る保守点検業務の中には、３年に１回や２年に１回実施する業務があり、前年度実施した業務で、今年度実施する必要がない業務があるためです。

続きまして、大分飛びまして、予算書の３２１ページをご覧ください。一番下の枠に土地取得費があります。これは日高町竹貫の太陽光発電の収益により、毎年度、土地開発基金から土地を買い戻しており、前年度と同額の１，５００万円を計上しております。

続きまして、歳入です。戻っていただいて、５９ページをご覧ください。真ん中の枠の一番上に土地と建物の貸付収入があり、このうち２，３２３万１，０００円が資産活用課分で、普通財産を貸し付けしていることによる収入を計上しております。毎年度、貸付物件の増減がありますけども、今年度から旧港西小学校の貸付が始まりますので、前年度よりも約４６０万円程度増額となっています。

次に、その下の枠の一番上に土地売払い収入があり、このうち５，５９０万円が資産活用課分で、未利用地の売却収入を計上しております。

最後に、６１ページをご覧ください。下から２つ目の枠に太陽光発電事業特別会計繰入金があり、このうち１，５００万円が資産活用課分で、先ほど歳

出で説明いたしました太陽光発電の収益を土地開発基金からの土地の取得に充てるために計上しているものです。

説明は以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 総務課、大形課長、どうぞ。

○総務課長（大形 昌民） 90ページ、91ページをご覧ください。目財産管理費の右側、説明欄の1行目、庁舎管理費です。2025年度予算と比較しまして、約4,000万円の減額となっています。2026年度の予算の主なものとしましては、2027年3月に処分期限を迎える低濃度PCB廃棄物に係る処分料や庁舎の屋上防水工事を計上していますが、2025年度に実施しました本庁舎等蛍光灯のLED化など、政策的予算の差引きで減額になっています。

続きまして、庁舎管理費の下、自動車管理費です。2025年度予算と比較し、約1,300万円の増額となっています。

92ページ、93ページをご覧ください。93ページ、右側説明欄、上から5行目、事業用備品ですが、これは、総務課が保有しています公用マイクロバス2台のうち、老朽化車1台の更新費用を計上しており、主な増額要因です。

続きまして、歳入です。戻っていただき、62ページ、63ページをご覧ください。繰入金の右側説明欄、下から3行目にあります公共施設整備基金繰入金ですが、このうち4,000万円につきましては、先ほど歳出の際に説明しました屋上の防水工事の財源として充当しています。

説明は以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 人事課、岡部次長、どうぞ。

○総務部次長（岡 亮吾） 人事課固有の歳入歳出につきまして、主なものについてご説明いたします。

議案書の87ページをご覧ください。まず、歳出です。右側説明欄中ほどの人事給与費についてですが、今年度の当初予算と比較して830万5,000円の増額としています。人事給与費のうち、業務

委託料がありますが、このうち就業管理システム改修業務807万4,000円が新規業務となります。現在導入しています勤怠管理システムについて、庁舎外の施設も含め、全庁的にシステム利用が図れるように、クラウド化によるシステム改修を実施することとしています。

また、中段の職員研修事業費の上にクラウド使用料がございますけれども、これについては、電子給与明細、統合型人事情報システム、職員採用管理システム、それと、先ほど説明いたしました就業管理システムの改修後に係るクラウド使用料という形になっております。

次に、同じページの下側の職員研修事業費についてです。今年度当初予算と比較して293万2,000円の増額としています。下から3行目の負担金のうち、派遣職員研修として、除草作業を行う職員を対象とした刈り払い機作業安全講習を新たに実施することとしているものでございます。

89ページをご覧ください。福利厚生事業費につきましては、今年度の当初予算と比較して27万7,000円の減額としておりますけれども、ほぼ例年どおりの予算計上となっております。

続きまして、97ページをご覧ください。説明欄、右側、下から2行目のキャリアデザイン推進事業費です。今年度の当初予算と比較しまして28万4,000円の減額としておりますけれども、ほぼ例年どおりの予算計上となっております。

次に、歳入です。71ページをご覧ください。主な増加分としまして、下から12行目、保険料本人負担金についてですが、1,050万円が人事課所管分となりまして、今年度の当初予算と比較して520万円の増となっております。毎月の給与から引き取りを行う雇用保険料に対する個人の掛金を受け入れるものですが、保険料の改定、保険料率の改定、それと、人事院勧告に伴う給料表改定に伴い、増としているものでございます。

そのほかにつきましては、ほぼ例年どおりの計上となっています。

人事課からは以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 地域づくり課、宮田課長、どうぞ。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 私のほうからは、地域づくり課所管分のうち、主な予算につきましてご説明させていただきたいと思います。

まず、歳出についてご説明をさせていただきます。予算書の98ページをご覧くださいと思います。上の枠、企画費の続きになりますが、右のページ、99ページに目をお移してください。5行目、はたちを祝う会事業費となっております。こちらにつきまして、従来は市民会館のほうで開催してきておりましたが、来年度からは総合体育館を使つての実施ということで考えております。そのために、会場設営等に係ります費用が必要なことから、今年度と比較しまして129万7,000円増額の257万1,000円を計上させていただいております。

続きまして、108ページをご覧くださいと思います。こちら、一番下になりますが、市民プラザ費でございます。

右側、109ページをご覧くださいと思います。市民プラザ費といたしまして、市民プラザ管理費といたしまして、運営委託料、指定管理料になりますが、こちらを153万4,000円増額させていただいております。

また、次のページにもまたがって、111ページにもまたがってきますが、市民プラザの事業費といたしまして、今年度同様、4本の作品公演を委託実施するというので、合わせまして、市民プラザ管理費5,974万5,000円を計上させていただいております。

続きまして、118ページをご覧くださいと思います。こちら、下の枠にございますが、地域コミュニティ推進費でございます。

こちら右のページ、119ページをご覧くださいと思います。こちら、人件費のうち、7行目になりますが、地域マネジャーに係ります時間外勤務手当でございます。こちらにつきましては、豊岡地域の地域マネジャー10人分に係る時間外勤務手当が地域づくり課の予算ということになります

が、この地域マネジャーにつきましては、前年度比おおよそ50万円増額のおおよそ210万円、地域づくり課分として計上させていただいております。

こちらにつきましては、会計年度の皆さんにおきましては、一昨年度途中までは、時間外等に、土日、夜間等に勤務を行った場合、原則として振替休暇ということで取得していただいておりますが、昨年度の途中から、時間外勤務手当対応になったということもございまして、増額が生じております。また、各地域におきまして、地域マネジャー以外にも地域雇用職員というのを雇って、センターの運営に従事していただいておりますが、成り手不足等などによりまして、地域マネジャーに業務が集中するという事などもございまして、この先ほどご説明いたしましたように、前年度比おおよそ50万円増額ということで計上のほうさせていただいております。

続きまして、121ページをご覧くださいと思います。こちら、9行目にコミュニティセンター管理費ということで計上させていただいております。1億2,110万2,000円ということで、今年度より1億4,108万1,000円減額となっております。

こちらにつきましては、今年度、旧中竹野小学校の跡地に中竹野コミュニティセンターを新築させていただきましたが、来年度につきましては、既存の三方地区コミュニティセンターの長寿命化工事を行うということで予定いたしております、その枠の下から5行目にございますが、補修工事費として5,282万2,000円、並びにその11行上に投資委託料として887万3,000円を計上させていただいておりますが、全体としては、事業費としては減額となっております。

また、その投資委託料の2行下、業務委託料ですが、こちら、今年度から全コミュニティセンターに電子錠を導入させていただきました。今年度につきましては、移行期間への対応といたしまして、豊岡、五荘は9月末まで、日高はこの3月末まで、夜間、あるいは休日等にシルバー人材センターに宿日直業務を委託いたしておりますが、それが皆減にな

るということで減額となっております。

続きまして、124ページへお進みいただきたいと思います。地方創生推進事業費になります。

こちら、右側125ページをご覧くださいと思います。中ほど、上から19行目になりますが、出会い機会創出事業費でございます。事業全体につきましては、今年度同様、市主催の結婚イベントでありますはーとピーやボランティア仲人の縁むすびさん事業などを継続して実施していきたいというふうに考えております。

また、今年度に引き続きまして、豊岡市内在住、在勤にこだわらない広域のイベントにつきましても、実施のほう考えております。

その下になります。下から18行目、定住推進事業費になります。こちらの補助金の4つ目になりますが、古民家再生促進事業でございます。こちらが新規事業ということでありまして、これにつきましては、古民家のうち、歴史的建築物等ということに限定はされますが、宿泊施設等の地域交流拠点として改修する場合に、県と市合わせておおむね事業費の3分の2を補助させていただくような制度の創出を考えております。その補助金といたしまして1,000万円計上させていただいているところです。本制度の導入によりまして、限定的ではありますが、空き家を有効活用する際に、併せて地域の活性化につながっていくものではないかというふうに考えております。

なお、この制度につきましては、県と市それぞれが補助を行うという制度になっておりますので、歳入はございません。

続きまして、131ページをご覧くださいと思います。下から12行目になります。地域おこし協力隊推進事業費でございます。このうち1億1,754万9,000円が地域づくり課分となっております。

次の133ページにわたって記載をいたしておりますが、継続隊員7名分と新規隊員16名分の活動経費及び募集に係る事務経費などを計上させていただいております。継続隊員の減少に伴いまして、

246万3,000円の減額となっております。しかしながら、国の要綱改正によりまして、特別交付税対象となります隊員の人件費分の上限が30万円引き上げられておりますので、豊岡市でも同様の取扱いとするということで、隊員1人当たり、年間548万3,000円の委託料とさせていただいております。

続きまして、133ページにお進みいただきたいと思います。こちら、UIターン推進事業費になります。事業内容につきましては、今年度同様、引き続き行っていくということを考えております。その中で、若者事業、今年度に引き続き実施いたしますが、こちらのほうがふるさと財団の地域再生マネージャー事業補助金を活用して実施しておりますが、来年度が3か年事業の3年目ということになりますので、再来年度以降、その補助金がない中でどのように継続実施できるのかということを考えながら、しっかり取り組んでまいりたいというふうに考えております。

続きまして、歳入でございますが、おおむね例年と同様ですので、説明のほうは省略させていただきたいと思います。1点、74ページをお願いしたいと思います。こちらのほう、下の枠の1つ目の総務債になりますが、右側の総務管理債の中の5行目、コミュニティセンター整備事業債ということで、三方コミュニティセンターの改修整備に当たりまして、5,550万円、これを計上させていただいております。

なお、10ページの第3表、地方債のほうにも記載いたしておりますので、ご確認いただければと思います。

地域づくり課からの説明は以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 多様性推進・ジェンダーギャップ対策課、原田課長、どうぞ。

○多様性推進・ジェンダーギャップ対策課長（原田紀代美） 私からは、人件費と多様性推進・ジェンダーギャップ対策課が所管する主な事業として、地方創生推進事業費の5つの事業について説明いたします。

まず、歳出についてです。83ページをご覧ください。下の枠の下から8行目、一般管理費の人件費、時間外勤務手当総額のうち168万7,500円が多様性推進・ジェンダーギャップ対策課分です。前年度と比較して65万5,000円の増額となっています。主な増加要因につきましては、実績に応じた増加と5年に一度に実施します第4次豊岡市男女共同参画プランの改定、人権市民意識実態調査など、新たな事業への対応によるものです。

続きまして、121ページをご覧ください。下の枠の下から10行目、多文化共生推進事業費です。こちらは、神戸大学と共同で実施する多文化共生に関する調査研究事業が完了しましたので、前年度と比較して357万2,000円の減額となっています。

多文化共生推進事業費の主な内容ですが、これまでと同様に、外国人相談窓口での相談業務、市民や窓口職員、保健師、保育士等を対象とした様々な研修の開催、外国人市民の交流事業の実施、外国人支援団体による日本語教室の運営業務に対する支援などを行います。

主な費目についてですが、業務委託料、外国人交流事業等開催業務として105万円を計上しております。前年度と比較して45万円の増額となっています。

新たに加えましたものは、新規事業として地域における多文化共生導入事業に関する業務を45万円計上しております。外国人市民との多文化共生を進める取組を行う地域に対して支援を行うものです。

123ページをご覧ください。上から4行目の補助金、在住外国人コミュニケーション支援事業費646万円です。前年度と比較して66万円の増額となっています。外国人支援団体2団体が開催している日本語教室の開設、運営業務に対しまして補助金を交付するものですが、活動拠点となる施設賃借料への支援を目的として拡充するものです。

続きまして、同じページのワークイノベーション推進事業費599万円ですが、こちらは、市内事業

所向けのジェンダーギャップの解消の取組です。主な内容ですが、女性マネジメント層向け等のターゲット別のセミナーの開催をはじめ、従業員意識調査、ワークイノベーション表彰制度、ワークイノベーション推進会議の活動などです。昨年度と同じような内容となっておりますので、省略をさせていただきます。

続きまして、同じページのジェンダーギャップ解消推進事業費535万円です。こちらは、まち全体を対象としたジェンダーギャップの解消に取り組むものです。暮らしの中の性別役割分担の実態と意識調査及び働きやすく、働きがいのある職場づくりに向けた事業所調査の完了、また、取組事業の変更などによりまして、前年度と比較して359万1,000円の減額となっています。

主な内容ですが、地域や学校園、家庭を対象とした啓発事業や学校園におけるジェンダー、多様性などをテーマにしたオリジナル絵本の活用などです。新規事業として、仮称ですが、女性のための防災ノートの作成やジェンダーギャップ解消の定量化指標を策定します。主な費目として、報償金195万5,000円を上げておりますが、アドバイザーへの謝金、また、ラク家事・育児コミュニケーションシートを活用した研修会や1才のすくすく広場でのミニワークショップの協力者謝礼などです。

次に、消耗品のうち、新規事業として、オリジナル絵本「みらいへのつばさをひろげて」の出版に伴う図書の購入費用110万円を計上しています。絵本を購入し、学校園に配布して、授業や保育での読み聞かせなどに活用いただけるようにジェンダーや多様性について学べる環境を整備します。

次に、手数料24万2,000円です。新規事業として、地域防災へのジェンダー視点の促進と女性の参画の促進に向けて、先ほど説明しましたジェンダー防災ノートを製作するものになります。

次に、業務委託料ですが、こちらも新規事業となります。定量化指標策定業務163万8,000円を計上しております。ジェンダーギャップ解消の取組による地域の質的变化を定量化する指標を策定

するものとしております。

続きまして、同じページの子育て中の女性の就労促進事業費についてです。こちらは、2021年度から取り組んでいる女性デジタル人材育成と女性起業家の育成、また、子育て支援総合拠点施設WACCUTOYOOKA内のみらい応援Roomを活用した女性の就労支援などの取組に係る費用となっております。女子中高生向けのプログラミング体験キャンプの事業の終了などによりまして、前年度と比べて41万4,000円の減額となっております。

主な費目では、報償金79万8,000円がありますけれども、女性起業家育成などの起業相談と起業セミナーの謝金、プログラミング人材育成の3か月間の講座の謝金などになります。業務委託料413万円は、女性デジタル人材育成と就労支援プログラムの開催委託料になります。女性の経済的自立を視野に、対面授業とeラーニングの学習プログラムによりスキルを身につけ、個別キャリア相談や修了者の就労支援を行うなど、出口戦略も併せて実施する内容に拡充する予定です。

続きまして、133ページをご覧ください。

○分科会長（芹澤 正志） ちょっと待ってくださいよ。

はい、どうぞ。

○多様性推進・ジェンダーギャップ対策課長（原田紀代美） 下から19行目、多様性推進事業費132万1,000円です。主な内容は、多様性推進方針に掲げている多様性の視点をあらゆる施策に反映するため、アドバイザーを設置し、市民委員により検討委員会を4回開催する予定です。検討委員会では、男女共同参画プランの改定、多文化共生推進プランの進行管理、ジェンダーギャップ解消戦略の進行管理も併せて行います。また、市職員向けの多様性に関する研修会を開催します。

主な費目では、報償金121万6,000円ですが、検討委員会開催に関する委員謝礼、アドバイザー謝礼、そして研修会の講師謝礼となっております。

続きまして、歳入の説明をさせていただきます。

ページを戻っていただきまして、35ページをご覧ください。下から3行目の総務費国庫補助金、地域女性活躍推進交付金の366万9,000円を計上しております。これは歳出の子育て中の女性の就労促進事業の中の女性デジタル人材育成と就労支援プログラム、女性のプログラミング人材育成、女性の起業家育成事業の計489万2,000円に対する交付金であり、補助率は4分の3となっております。

続きまして、同じページの一番下の行をご覧ください。外国人受入環境整備交付金194万1,000円については、昨年度から会計年度任用職員として採用している外国人相談窓口の外国人相談専門員の人件費として総務部の人件費388万2,000円に充当するもので、補助率は2分の1となっております。

続きまして、41ページをご覧ください。一番下の枠、地域未来交付金、地域未来推進型の総額のうち748万4,000円が、当課が所管しております、先ほど説明した地方創生推進事業の5つの事業の財源に充てるものです。

次に、63ページをご覧ください。繰入金の一番上の枠内の上から6行目、地域振興基金繰入金の総額のうち900万円が多文化共生推進事業費、ワークイノベーション推進事業費、ジェンダーギャップ解消推進事業費、子育て中の女性の就労促進事業費の、4つの事業の財源に充てていただくものになります。

続きまして、73ページをご覧ください。雑入の上から23行目、ちょうど中ほどになります。補助金・交付金の市町日本語教育体制づくり事業費補助金323万円になりますが、文科省の間接補助事業として、兵庫県から交付されるものです。多文化共生推進事業費のうち、日本語教室の実施に係る補助金の在住外国人コミュニケーション支援事業費の財源に充てるものです。

多様性推進・ジェンダーギャップ対策課からの説明は以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 会計課、西村課長、どう

ぞ。

○会計課長（西村 嘉通） では、会計課の関係分につきましてご説明させていただきます。

初めに、歳出で、91ページをお願いいたします。説明欄上から3枠目の会計管理費のところをご覧ください。こちらは、市の会計処理に係る事務的経費になります。会計課ほか関連ですので、まとめてご説明します。

項目中主なものは、手数料とシステムに係る委託料です。手数料は、前年度予算に対しまして約270万円の増額としております。これは、指定金融機関等に支払う各種事務手数料について一部見直しを行ったことによるものです。また、委託料につきましては、財務会計システム更新業務の委託料として4,500万円を計上しております。これは、昨年9月議会におきまして債務負担行為の設定をお認めいただき、現在業務を進めているものでございます。令和8年度中に更新作業を完了し、令和9年度の会計処理から新システムで事務処理を行う予定としております。

次に、93ページをお願いいたします。説明欄上から10行目、基金管理費のところをご覧ください。基金への積立金の予算で、内訳のうち、何々基金（利子）としているものが会計課の所管分になります。全部で14件、合計金額が1億1,221万3,000円です。これは、基金の運用に伴う利子収入に相当する額を各基金に積み立てるもので、前年度当初予算額に対し約7,800万円の増額としております。

歳出の説明は以上です。

次に、歳入です。戻っていただきまして、59ページお願いいたします。ページ真ん中の表の上から3枠目、基金運用利子のところをご覧ください。これは、基金の運用による利子収入を運用益として収入するもので、前年度当初予算に対し約8,000万円の増額としております。これは金利の上昇に伴う利子収入の増加などによるものです。

基金ごとの内訳は、各基金の保有残高による案分で、歳出でご説明した基金利子積立金の予算とそれ

ぞれ項目、金額は対応しております。なお、一部の基金は、利子の積立てを行わず、対象事業の財源に充当するため、歳出に項目がないものもございます。

最後に、75ページをお願いいたします。市債で、下の表の説明欄、一番上の枠の7行目、行政情報化推進事業債として230万円を計上しております。これは、歳出でご説明いたしました財務会計システムの更新業務の一部の財源として活用するものでございます。

説明は以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 説明は終わりました。

ここで分科会を暫時休憩します。再開は10時40分。

午前10時33分 分科会休憩

午前10時40分 分科会再開

○分科会長（芹澤 正志） それでは、休憩前に引き続き分科会を再開します。

既に説明を終えておりますので、これから質疑に入ります。

質疑はありませんか。どなたからでもどうぞ。

竹中委員。

○委員（竹中 理） 令和8年度の予算ということで、今回、財政調整基金が大幅な取崩しということで17億円取り崩すということで、年度末の残高が約27.1億円と減少する見込みとなっております。大規模事業とか激甚災害など不測の事態の備えとして、現在の基金残高の適正規模をどのように捉えられているのかっていうのと、あと今後の回復と積み増しに向けた道筋とか教えていただけたらと思います。

○分科会長（芹澤 正志） 長谷川部次長。

○行政管理部次長（長谷川幹人） 財政調整基金につきましては、先ほどおっしゃるとおり、2026年度当初予算値では残高が27億円という形になります、27億円程度。

一般的に、財政調整基金の規模としましては、標準財政規模の1割程度と言われてます。標準財政規模、大まかには普通交付税と市税を合わせたもの、

豊岡市でいいますと約270億円ぐらいが標準財政規模と言われてます。ですので、その約1割程度、三、四十億円あれば、それが適正かなということと考えます。ただ、今のところ、2026年度当初予算で27億円ですので、約1割程度ということが1点と、今回、17億円、財政不足で取りあえず繰り入れ、取崩しをしていますけど、最終的にこの17億円も何とか取り崩しせず、ゼロまで持っていけるというふうに思ってますので、イメージ的にはこの27億円プラス最終的に17億円、44億円程度が財政調整基金として残ってる、適正な基金残高かなというのは財政としては考えてます。以上でございます。

○分科会長（芹澤 正志） 竹中委員。

○委員（竹中 理） ありがとうございます。分かりました。

次に、市長の総括説明でも、ふるさと納税の件ですけども、好調であるというふうに言われて、ふるさと納税と、今言った財政調整基金に依存した極めて不安定な状況であるというふうな危機感を示されているんですけども、今、国でこのふるさと納税の件とかいろいろと言われてますこととか、そういったことを考え、まあ、分析っていうか考えていただいて、今後、安定的な自主財源確保に向けて、どのように独自対策とかされるのか、来年度ですね。もしあればお願いします。

○分科会長（芹澤 正志） 長谷川部次長。

○行政管理部次長（長谷川幹人） ふるさと納税につきましては非常に好調です。ちなみに2024年度、昨年度が17.3億円、今年度、2025年度、2月末の速報値ですけど、18.5億円ということで、2月末で昨年度を超えてるといった状況です。

ただ、ふるさと納税につきましては、どうも上限額といいましょうか、個人個人の上限額がキャップが定められるということを聞いてますので、ちょっと今後、非常に流動的、特に大口といいましょうか、高所得者の方のふるさと納税額が減っていくであろうというふうには想定します。

我々としては、先ほど言われたように、本当

にふるさと納税に今頼り切ってますので、何とかこれに代わる財源とか筋肉質な財政をつけたいと思ってるんですけど、実はなかなか難しい状況でして、歳入確保に努めるとか、歳出の削減、こういったものに注力するしかないのかなと。ただ、具体的に今のところ、何もできてないというのが状況でして、早急に我々としても対応したいなというふうには考えています。以上でございます。

○分科会長（芹澤 正志） 竹中委員。

○委員（竹中 理） 非常に本当にふるさと納税っていうのはありがたいっていうか、なんで、来年度もぜひいろいろと考えてやっていただけたらと思います。取りあえず以上です。

○分科会長（芹澤 正志） ほかに。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 久しぶりに総務委員会に来たようなんで、ちょっと、さっき長谷川次長が言われた、市税が2.2%増言われましたかいな、全体で。99億3,000万円程度なんでしょうけど、それ見てまして、18ページ見てましたら、個人市民税が前年度予算で34億とんで900万円か、から35億1,000万円と1億100万円ということは3%弱ですね、個人市民税の増、予算ですけれども。それで法人市民税が5億7,000万円程度から5億9,100万円と2,000万円と、これも3%ぐらいかな、予算増ですね。それから、固定資産税が47億7,000万円から48億8,000万円程度で、1億1,400万円ですから、これも2%強ですね。そんな予算立てをされてますけれども、よく議題になります超過課税で、今の個人市民税、法人市民税、固定資産税の超過課税分、それぞれどれぐらいあるんでしょうか。ざっくりでよろしい、教えてくださいな。個人市民税、法人市民税、それから固定資産税の超過課税。

○分科会長（芹澤 正志） 長谷川部次長。

○行政管理部次長（長谷川幹人） お手元の資料といいましょうか、Side Booksのナンバー2、前年度比較資料っていうのが……。

○委員（福田 嗣久） 載っとるわけですか。

○行政管理部次長（長谷川幹人） はい。ナンバー２の前年度比較資料、その１ページをご覧ください。こちらのほうに、超過課税分の見込みをしまして、個人市民税につきましては５，５００万円、法人市民税につきましては１億３，６００万円、固定資産税につきましては３億２，３００万円という見込みを立てております。以上でございます。

○分科会長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） はいはい、出てましたね。個人市民税が５，５００万円、法人市民税が１億３，６００万円、これ予算立ての中での増額ですね。

この個人市民税っちゅうのは、６％が６．１の０．１％高い分がこういうことですね。それから、法人市民税は、これちょっと複雑だったと思うけども、どうだったかな、均等割は上限までいってましたね。例えば、資本金での５万円とか１２万円とかやった、それは最大までいってるんですか、増額に対して。

○分科会長（芹澤 正志） 長谷川部次長。

○行政管理部次長（長谷川幹人） ちょっとすみません、資料を持ち合わせておりませんので、すみません。

○分科会長（芹澤 正志） はい。

○委員（福田 嗣久） ほんならまた後で教えてください。

それから、固定資産税は、これはどうだったいな、１．４が１．５ですね、豊岡市が。それでよろしかったね。

○分科会長（芹澤 正志） 長谷川部次長。

○行政管理部次長（長谷川幹人） また後ほど説明させていただきます。すみません。

○委員（福田 嗣久） ああ、そうですか。

私の頭の中では、固定資産税が１．４が１．５に、豊岡市、設定されてる、それで、０．１％分が３億２，３００万円ということになりましようね。

それから、法人市民税が超過課税で、さっき申し上げた均等割は多分認められた筒いっぱいまでいってると思うんです。それが１．２倍までだと思うんですわ、標準税率の１．２倍まで。要するに、２割増し。所得割額は、これはもう正直、一番高いと

ころいってると思うんですけども、８．４だったかな。これは４０％増し。どこの市もようけ取っと思うんですけどね、そんな超過課税で、これがよく言われる１７年前の制度改正、税制改正によってされてるということで、須山委員がいつも言われる個人市民税が一番高いよということなので、それが５，５００万円ということになると思うんですけども、この辺はいつも議題になってて、大きな課題としてあるんですけども、この税制について、本議会では少し考えていこうねというような話もあったやに思ってるんですけど、この辺の感覚はどうでしょうか。

○分科会長（芹澤 正志） 野村部長。

○行政管理部長（野村 亮太） まず、ちょっとお答えする前に、先ほどお問い合わせありました超過課税の関係です。福田委員のおっしゃるとおりでございます。固定資産税については標準税率１．４のところを豊岡市が１．５にしている。法人市民税については、法人税割のところは標準税率６．０のところを豊岡市は８．４にしていると。

○委員（福田 嗣久） それはもう筒いっぱいですか。

○行政管理部長（野村 亮太） はい、なっております。

あと、今後どうするかでございますが、ちょっと議会のほうでも答弁させていただきましたが、やはり、過去、これまでいろいろ経緯があって決まったことでございます。それをどうするかについては、やはりいろいろ検証というか、していく必要はあるかと思っております。

直近で見ますと、今月末に下水道の使用料の見直しがあるやに聞いておりますので、その答申がありまして、それについて今後市としてどうしていくか、それを踏まえた上で、仮に見直しといった場合にどう財政に影響があるかと、そういったところも見極めた上でしかるべき時期に方向性、お示しをしていく必要があるかなと考えています。

○分科会長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） いつも私も申し上げるんですけど、市税全般、豊岡市、似たような市から比較し

ても低いとこですんで、この辺でやっぱり税の、いつも市長も言われる、前の市長も言われとったんですけども、自分事として出すもんは出していこうというこのスタンスだったと思うんですけどね。そうすると、多少アップされてますけれども、まあまあ、それでも非常に低いとこにあると思ってるんで、この税の問題は一番大きな行政としても課題だろうと思うんで、しっかりと検討していただきたいのと、もう一つ、この超過課税についての、これも議題によく本会議で上がってますけども、別の、新しい税とかその検討は進んでるんでしょうか。

○分科会長（芹澤 正志） 野村部長。

○行政管理部長（野村 亮太） 新しい税について、今、観光文化部のほうで新しい観光財源について議論がされてるように聞いています。最終的にどういう財源の使われ方、そういうことはあることかと思えます。そういうところには注視していきたいと思っております。

○分科会長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） ほんなら、具体的にその観光関係のということがよく新聞なんかで出てますけれども、宿泊税なんかのことじゃないかな思うんですけれども、そういったことは検討を今されてるところですか、庁内では。あまりしてない、まだ。

○分科会長（芹澤 正志） 長谷川部次長。

○行政管理部次長（長谷川幹人） 担当課のほうで検討されてるといったことで聞いております。

○委員（福田 嗣久） なるほど、向こうでね、向こうでねいうたらおかしいな。はい、分かりました。取りあえず。

○分科会長（芹澤 正志） よろしいですか。

ほかに。

須山委員。

○委員（須山 泰一） 119ページの地域コミュニティの推進費のところ、地域マネジャーの時間外が590万円って言われたとこですけど、それは29人全員の分はここに給与自体は計上されてるけど、時間外は豊岡の10人って言われたような気がしたんですけど、そうなんですか。

○分科会長（芹澤 正志） 宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） こちらに記載されていますのは、豊岡地域29館全ての地域マネジャーに係る人件費ということですが、私ども地域づくり課で要求させていただいてるのは豊岡地域の10人分ということで、そのうち幾らということでご説明させていただいたところでございます。したがって、ほかの19人、29館分全ての金額ということ。以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 須山委員。

○委員（須山 泰一） この時間外の593万円は29人全ての分が入っているということで、そういうことですね。

そうですね、ちょっと本会議で少し触れたことに関して、今日報告されたんでね、ちょっと注目しました。そうですね、地域マネジャーに限らず、一生懸命、とても詳しい職員の方で、聞いてみたら会計年度任用職員だということがちょくちょくあるんでね、本会議ではそういう人をぜひ正規にという提案させていただきましたが、これに関わって2点教えてください。1つは、今議会ではなかったけど、時々本会議でも言われるコミセンなど施設利用ですけど、今までどおり紙でも電話でも引き続きできるっていうふうに答えられてますけど、それは現状どうなっているかどうかと、もう一つ、予約したけどキャンセルになった場合、基本的には返金できるのかでいいのか、そこんことを教えていただきたいです。

○分科会長（芹澤 正志） 宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） まず1点目でありましたが、現在、コミュニティセンターの利用予約に当たりましては、ネットでも、あるいは窓口での対応もさせていただいております。ただ、電子錠等の導入も含めまして、ネットで利用されるほうが便利になろうかと思っておりますので、窓口と一緒に操作なども説明させていただきながら、できる方についてはスマホ等を使っての移行を支援をさせていただいてるところでございます。

2点目の予約をしたけどキャンセルという場合

につきましては、条例規則上、適切にはそれに対応できないということでございます。ただ、キャンセル料をもらわないように、ほかに振り替えたりということで便宜を図る中で、ご利用者の方に迷惑がからないような形で、今のところは運用をさせていただいてるところでございます。以上です。

○分科会長(芹澤 正志) できるだけ予算に絞って。
須山委員。

○委員(須山 泰一) ああ、はい、じゃあ、取りあえず、だったらいいです。

○分科会長(芹澤 正志) 福田委員。

○委員(福田 嗣久) ほんなら、予算に絞って、ちょっと。これでいかせてもらいますわ、紙ベースで。空飛ぶクルマ社会実装に向けた取組、新規なんですけれども、これは推進協議会に会費を出したり、補助を出すということですけどね、これもう設立をされてるんでしょうか。そして、誰が会長で、豊岡市でどういうふうな枠ができてるのか、ちょっと教えていただきたいと思います。まず1つ。

○分科会長(芹澤 正志) 真狩課長。

○経営企画課長(真狩 直哉) この空飛ぶクルマの協議会につきましては、既に9月だったと思います、既に設立をしております。会長につきましては、城崎温泉観光協会の会長であります高宮氏が務めていただいております。以上です。

○分科会長(芹澤 正志) 福田委員。

○委員(福田 嗣久) それは9月に設立されててということで、会費を出したり、補助のことがここへ書いておりますけども、具体的にはどういう活動をどういうふうにされてるのか、ちょっと説明をいただけませんか。たしか聞いたような気がするなと思いつつですけども。

○分科会長(芹澤 正志) 真狩課長。

○経営企画課長(真狩 直哉) この協議会におきましては、この空飛ぶクルマの運用といいますか、実際に飛ぶというようなことを目指して、地域の合意形成あたりを中心にやっています。また、関係機関、国などに対してのいろんな情報をいただいたりとかってというような活動、それから勉強会などを行っ

ていると、そういうような状態です。

○分科会長(芹澤 正志) 福田委員。

○委員(福田 嗣久) 全く詳しくないんですけど、空飛ぶクルマはもう実際にデモンストレーションなんかされてるんですかいな、日本の中で。

○分科会長(芹澤 正志) 真狩課長。

○経営企画課長(真狩 直哉) 実際にあちこちを飛んでいるというような状態ではないです。実際に機体が置かれて、そこに見に行けるとかっていうようなこともありますし、あと、仮定の、飛んだらこういふふうになりますよとかってというのが先日も大阪のほうでやられていて、それがニュースになったりというようなことはありますけども、実際の機体が今飛んでるというようなことではないです。以上です。

○分科会長(芹澤 正志) 谷口公室長。

○市長公室長(谷口 雄彦) デモ飛行的なことはやっています。国は、2027から28に先行的な地域で無償運行を開始をしたいという計画で、そういう状況でございます。

○分科会長(芹澤 正志) 福田委員。

○委員(福田 嗣久) ほんなら、まだ部長や課長は乗ってきとんならへんやな。まあ、夢のある話ですから、しっかりと情報をつかんでいながら、豊岡に役に立つ形で描いていただけたらと思いますけれども。

それと、細かいことですけど、次の但東Xプロジェクト：キオスク端末の、これはいつ頃どこへ設置されるんでしょうか。これで但東も200円コースが進むなと思ってるんですけど。

○分科会長(芹澤 正志) 橋本課長。

○DX・行財政改革推進課長(橋本 直紀) 現在のところ、予算をお認めいただいたらという大前提の下、さとうのミニフレッシュのほうで置くことを想定して、交渉に励んでるところでございます。

○分科会長(芹澤 正志) 福田委員。

○委員(福田 嗣久) なるほど。分かりました。いつ頃の予定でしょうか。大体でよろしい。

○分科会長(芹澤 正志) 橋本課長。

○DX・行財政改革推進課長（橋本 直紀） 6月ぐらいに置けたらいいなということで鋭意進めさせていただいております。

○分科会長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 6月ぐらいね。分かりました。取りあえずそこまでにして、あと替わりますわ。

○分科会長（芹澤 正志） ほかに。
竹中委員。

○委員（竹中 理） DXの推進に、先ほど具体的な投資先っていうか、来年度、クラウドだとかいろいろお聞きしたんですけども、令和8年度は、今年度と比べてDX関連予算がどこに回されたというのは先ほど聞いたんですけど、特に来年度、DX、市民サービスの利便性向上だけじゃなくて、例えば、職員の、何ていうんでしょう、職員が業務の効率化とかそういったことをするための中長期的な何かこう、特に特筆するようなことがもしあれば、もしあればというか、あると思うんですけど、お聞かせいただけたらと思います。

○分科会長（芹澤 正志） 橋本課長。

○DX・行財政改革推進課長（橋本 直紀） 喫緊の課題は、昨日も発言させていただきましたけども、生成AIを活用してどれだけ業務の効率化が図られるかということになろうかと思っています。定期的に庁内研修も行っているところでございます。

加えて、昨日も開庁時間の短縮試行にも、本格実施にも触れさせていただいたんですけども、生み出した時間でツールを使ってどれだけ市民サービスの向上に貢献できるかっていうところでは、オンライン化についても今年度棚卸しをしまして、1,000ほどの手続のうち、700弱ほどの手続がオンライン化できるということで、今、一旦、棚卸しをしています。2028年度100%目指して、鋭意進めさせていただきたいというふうに考えてます。

○分科会長（芹澤 正志） 竹中委員。

○委員（竹中 理） 分かりました。ありがとうございます。

生成AIっていうか、本当、民間でも今どんどん進んでますので、自治体っていうか行政でも遅れな

いようにしていったって、日々進歩してますんで、しないとどんどん遅れていってしまうので、ぜひ前向きに進めていったって、目に見える形でやっていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○分科会長（芹澤 正志） その他。
須山委員。

○委員（須山 泰一） DXのところでちょっとよく分からなかったんですけど、副業型、月に4日とかなんとかいう話があって、ちょっとそういう、それは外部の人が、いや、職員の話でしょうか。ちょっともう一回教えてください。

○分科会長（芹澤 正志） 橋本課長。

○DX・行財政改革推進課長（橋本 直紀） 地域活性化起業人と言われる制度については、大きく2つ制度がございます。1つは、派遣型といいまして、職員がもう丸々こちらのほうに赴任をしていただくパターンでございます。これについては、現在、KDDIと、それから日本郵便のほうから1名ずつ受けさせていただいて、市の仕事として従事していただいております。

一方で、副業型といわれますのは、三大都市圏の企業にお勤めの方が対象ですけども、その企業の仕事に従事しながら、副業という形で月に20時間、4日以上、豊岡市の仕事をしていただくというような制度になってございます。現在、1名の方、東京海上日動からお越しいただいております。その方は、特に東京海上日動の中でも公務部、要は、霞が関あたりの省庁と交渉するような仕事に長く従事されてましたので、豊岡市とのパイプ役として活躍いただいております。

相手先をちょっとまだお示しできませんけども、もう1名、副業型でお越しいただいて、豊岡のために従事していただくということで調整をさせていただいてるところでございます。

○分科会長（芹澤 正志） 須山委員。

○委員（須山 泰一） ありがとうございます。ちょっと知らない話でした。

今、竹中委員が言われたAIに関しては、皆さんどうか分かんのですが、AIは技術進歩であり、

使える面は大いにあると思うんですけど、どこまで行政が積極的に使うもんかっていうのは、ちょっと僕はまだ疑問がやっぱりありますね。やっぱり人とのコミュニケーションのほうを通じる市民のほうが多いように思うんです。まあ、これは今の話聞いてて思ったことです。以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 具体的に、地域づくり課にお尋ねをしますが、定住推進事業で拡大をされておまして、ア、イ、ウは一緒じゃないかと思って東京都からの移住、それから、エの古民家を活用した地域活性化事業支援で拡大とあるんですけども、これ1,000万円上限の3分の1、県と市は同額補助という、これは兵庫県の古民家再生促進支援事業の採択を受ける必要があるということで、1件分なんでしょうか。予定が何かされてるんでしょうか。

○分科会長（芹澤 正志） 宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 今、福田委員からおっしゃっていただきましたとおり、県の古民家再生事業のほうを活用しまして、豊岡市と県とそれぞれが補助を行うというふうなことを想定いたしております。先ほど少し申し上げましたように、それぞれが補助いたしますので、豊岡市に經由して一括して補助するというわけではなくて、市と県がそれぞれ補助ということで、まず、豊岡市が採択をするということが前提になってまいります。

それで、本件につきまして、豊岡市におきましては10年ぐらい前にも一回制度化させていただいたんですけども、1回使ったきりで、そのままになっておりましたが、今回、但東のプロジェクトの中で、大石家住宅を活用して地域住民、また外部からの都会の方も交流できるような場所を整備していきたいということもございましたので、スタートは但東ですが、ほかの豊岡市におきましても活用して、地域の皆さんと交流を進めて交流できればということで、地域づくり課として予算要求をさせていただいております。1件分を想定いたしております。以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 分かりました。この1,000万円で、1件分はこの分でしょうけども、またプラスアルファは、可能性としては予算枠はこれですけど、可能性はあるんでしょうか、今の趣旨からして。

○分科会長（芹澤 正志） 宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 本件につきまして、現在、伺っておるということは1件でございます。ただ、今後もそういったものが、やはり振興局でありますとかも含めまして、空き家を地域活性化に使いたいというのがあれば使っていきたいと思いますが、私ども豊岡市として予算をつけたといたしましても、県のほうも予算に限りがございますので、なかなか年度内で2件、3件というのは難しいのかなというふうには思っておりますが、県のほうの予算等も踏まえまして、適切に対応を図っていければというふうに思っております。以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 分かりました。すぐどうこうという話じゃなくて、県の、豊岡市が採択をして、県に持っていくということでしょうけれども、継続的なことなんでしょうか。例えば、次年度、次々年度とかいう話で。可能性としてですよ。

○分科会長（芹澤 正志） 宮田課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 今、福田委員からご指摘いただいたとおり、私どもといたしましては、空き家を今は住宅ということで利用していることについて制度で補助をさせていただいておりますが、さらにそれを地域活性化に使っていけたらというふうに思っておりますので、あくまでも所有者の方等がまずこの家を改修して地域交流拠点にしていきたいという動きがあればということが前提になりますが、そういった形を聞かせていただく中で、来年度以降も引き続き予算化を進めていければなというふうには考えております。以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 谷岡部長。

○くらし創造部長（谷岡 慎一） 今、課長が申し上げたとおりの事業なんですけど、来年度もぜひできたらやっていきたいと思っておりますけれども、あ、再来

年度になりますか、なりますが、一方で、この制度があるから、県のところだけで判定するというわけでもなくて、先ほども説明の中にありましたけども、振興局のほうでしっかり地域の振興の準備といえますか、協議ができてきたり、また、地域の中でもそういった熱望がかなり強かって、何ていいますか、こういったことの拠点整備に、熟度が高いといえますか、いろんな条件が合えば、単に空き家があるからそれやるっていう、取り組むという仕組みとしては考えてなくて、むしろもっと積極的にいろんな、何ていいますか、いい案件といえますか、そういったことに関しての支援としてこの枠組みを我々としては用意、何といえますか、絡んできた、絡むようにしようということで、今回、予算要求させていただいたつもりでおりまして、一般的にこの仕組みがあるからこれだけでやっていくっていうことではないということだけご説明させていただきたいと思いました。以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 大体分かってきました。要するに、地域なりの熟度も必要だということですね。すぐ空き家があるからこうこうという話じゃなくてね。

○くらし創造部長（谷岡 慎一） そのとおりです。

○委員（福田 嗣久） 分かりました。了解しました。

それと、続いて、ジェンダーギャップのことで、私自身はいつも妻や子供たちに叱られてばかりなんですけれども、ジェンダーギャップのこの事業目的、趣旨を聞いておりまして、今の妻に叱られることはちょっと置いといてもらっても結構ですけども、職場、家庭、地域におけるジェンダーギャップを解消し、事業目的、趣旨ですね、誰もが自分の意思で生き方を選択できる持続可能なまちをつくるということで目的としてうたわれてるんですけども、誰もが自分の意思で生き方を選択できない社会なんですか。ちょっと解説をください。

○分科会長（芹澤 正志） 原田課長。

○多様性推進・ジェンダーギャップ対策課長（原田紀代美） 誰もが自分の意思で生き方を選択できない

社会なのかということですが、例えば、夫が外で働いて、妻が家庭を守るべきという考えや慣習があります。そういう中で、自分が夢や、こうりたいなと思っていても、仕事と家庭の両立ができずにキャリアを断念しなければならなかったというようなことがあります。性別にかかわらず、男性も女性も自分がやりたい夢を描きながら、その実現に向けて動き出せる、進学、就職、生き方が自分で選べるようになるというのが理想といえますか、求める姿として考えております。

○分科会長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 私が消化不良の生活をずっとしておりまして、問題は私にあると思うんですけども、ぴんときないともあったり、また、市民のどれだけの人がこういったことを必要と感じておるのか、その辺もちょっと、私自身があまり慣れてない部分で、さっき申し上げたように、叱られてばかりの立場ですんでどうかなと思って聞いてみたんですけど、女性としてそういう意識は相当、今申し上げたような意識は高いんでしょうか。もっと解消せなあかんあかんってたくさんの人が思っておられるんでしょうか。ちょっと教えてもらえたらと思っております。

○分科会長（芹澤 正志） 原田課長。

○多様性推進・ジェンダーギャップ対策課長（原田紀代美） そうですね、ぴんときないというふうにおっしゃっていただくこともありまして、やっぱりジェンダーギャップの問題には、世代間のギャップもあります。

○委員（福田 嗣久） そうですね、世代間のね。

○多様性推進・ジェンダーギャップ対策課長（原田紀代美） はい。昨年度、市民意識調査を行ったのですけれども、先ほど言いました、夫が外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方に反対と考える方の割合は、年齢が高いほど低い傾向にありますが、30代になりますと、今、共働きが前提で、家の中のことも男性も女性も一緒にやっていこうというような意識になっていまして、反対と考える方の割合は、若い世代ほど高い傾向があります。

ですので、いろいろな環境の変化に応じてにはなるのですけれども、その方がどんな生き方をしていきたいのか、どんなふうに仕事や生活をしていきたいのか、そこに思いをはせながら、その方々の思いが実現できるような社会であり、職場であり、地域であるという、寛容な社会となるように、皆さんに考えていただくような機会を設けております。

○分科会長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） ありがとうございます。私のほうでよく消化をさせていただきます。

○分科会長（芹澤 正志） ほかがございませんか。よろしいですか。（発言する者あり）よろしいですか。

それでは、質疑はこの程度で打ち切りたいと思います。

以上をもちまして、分科会審査の午前の部を終了したいと思います。ここで委員の皆さん、当局の皆さんから、何かありましたらご発言願います。

ないようでしたら、ここで分科会を休憩いたします。

午前 11 時 16 分 分科会休憩

午後 0 時 55 分 委員会再開

○委員長（芹澤 正志） それでは、皆さんおそろいになられましたので、総務委員会を再開いたします。

委員の皆さん並びに当局職員の皆さんは、質疑、答弁に当たりましては、要点を押さえ、簡潔、明瞭に行っていただきまして、スムーズな議事進行にご協力お願いいたします。

なお、委員会及び分科会での発言は、委員長、分科会長の指名の後、マイクを使用して、課名と名字を名のってから行っていただくようお願い申し上げます。

なお、ここで、地域づくり課の宮田課長から発言の申出がありますので、これを許可しておりますので、よろしくお願いします。

はい、どうぞ。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 貴重なお時間いただきまして、申し訳ございません。

午前中の分科会審査の際に、福田委員のご質問に

対する回答に誤りがありましたので、お時間をいただき、訂正をさせていただけたらというふうに思っております。

あわせて、午前中説明した中で、1点、私のほうの説明が不十分だったということでありましたので、その件につきましても午前中と重なる部分もあろうかと思いますが、併せてご説明させていただきたいと思います。

まず、最初に、予算書のほうであります、119ページをご覧いただけたらなというふうに思っております。

こちら、右下の枠のほうに人件費ということで、須山委員からもご質問いただいたんですけれども、こちらのほうに会計年度任用職員の関係の給料等、また、通勤手当、時間外勤務手当等計上させていただいております。これにつきまして、今年度、この議会から、これまで人事課が説明しておりましたが、担当課のほうで説明するようにということで、時間外勤務手当が前年度と比べまして増えておりますので、地域づくり課のほうからご説明をさせていただきました。

この人件費の中の7行目になりますけれども、時間外勤務手当ということで593万円計上させていただいております。こちらのうちの豊岡地域の地域マネジャー10人分に係る時間外勤務手当といたしましては、約210万円がこのうちの内訳となっております。前年度と比べましておよそ50万円増額となっております。この経緯といたしましては、一昨年度途中までは、会計年度任用職員の皆さんが時間外に勤務を行っていた場合につきましては、原則として振り替え休暇を取得していただいていたという状況でございますが、時間外勤務手当対応となったこと、あるいは、各地域におきまして地域雇用職員の成り手不足などによりまして、地域マネジャーに業務が集中しているという事例もございまして、今年度の執行状況などを踏まえて増額したということで、こちら、重ねてになりますが、593万円のうち、おおよそ210万円が豊岡市10館の分で、前年度と比べて50万円増額してるということで

ご理解いただけたらなというふうに思っております。

あわせて、福田委員のご質問に対する訂正のほうであります。福田委員のほうから、主要事業の概要ナンバー8の定住推進事業に係るご質問をいただいております。こちら、古民家を活用いたしました地域活性化事業支援になります。午前中の質疑応答の中では、質問いただいた中では、現在、但東の大石家住宅1件を対象として考えているというふうに回答させていただいたところですが、出石にあります、伝建エリア内にある物件も想定いたしまして、2件で予算計上させていただいております。この点、おわびして訂正させていただきたいと思います。以上です。

○委員長（芹澤 正志） この件につきまして、何かございませんか。よろしいですか。

ありがとうございました。

では、ここで退席いただいて結構です。

○地域づくり課長（宮田 裕史） ありがとうございます。

○委員長（芹澤 正志） それでは、これより3の協議事項、（1）付託・分担案件の審査について、アの委員会審査に入ります。

第34号議案、令和8年度豊岡市管理会財産区特別会計予算を議題といたします。

当局の説明を求めます。

但東振興局地域振興課、大岸課長、どうぞ。

○但東振興局地域振興課長（大岸 勝也） それでは、223ページをお開きください。本案は、第1条で、歳入歳出の予算の総額を176万1,000円と定めております。

続きまして、最初に歳出をご説明させていただきます。235ページをお開きください。一般管理費として、高橋財産区の管理会委員5名分の委員報酬など人件費、消耗品費、通信運搬費として16万円、財産管理費として、福祉基金積立てを3万5,000円、予備費として156万6,000円を計上いたしております。

続きまして、歳入です。233ページをお開きく

ださい。利子及び配当金、不動産売払い収入、前年度繰越金、預金利子を計上いたしております。福祉基金の収入見込みを3万5,000円と見込んでいます。前年度繰越金は172万1,000円から、12万9,000円の減額となっております。

34号議案の説明は以上になります。

○委員長（芹澤 正志） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

質疑を打ち切ります。

討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） ご異議なしと認めます。よって、第34号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

ここで委員会を暫時休憩します。

午後1時01分 委員会休憩

午後1時02分 分科会再開

○分科会長（芹澤 正志） 分科会を再開します。

これより、3の協議事項、（1）付託・分担案件の審査について、イの分科会審査に入ります。

午前に引き続き、第26号議案、令和8年度豊岡市一般会計予算を議題といたします。

第26号議案中、当分科会に審査を分担されたのは、所管事項に係る歳入歳出予算、債務負担行為、地方債、一時借入金及び歳出予算の流用についてであります。

本案につきましては、予算説明書の説明欄に所管課が明記されておりますので、事業名称と予算額のみを説明いただく必要はありません。

十分な質疑を確保するために、新規事業や前年度から大きな変更のあった事業及び主要事業等を主として説明いただくようお願いしております。

当局の説明は、組織順で、各担当課から、歳出及び歳入等を一気に説明願います。

質疑は説明が終わった後に一括して行います。

当局職員の皆さんは、説明される際に説明するページを委員が開いたかどうか確認しながら、ゆっくり説明をお願いいたします。

それでは、順次説明を願います。

それでは、危機管理課、松岡課長。はい、どうぞ。

○危機管理課長（松岡 久雄） 私からは、危機管理課の主な予算、増減が大きいものについてご説明いたします。歳出、歳入の順で説明させていただきます。

まず、歳出についてです。予算書の263ページをご覧ください。説明欄の上段の上から3行目、非常備消防事業費です。予算額は2億4,137万5,000円で、2025年度と比較しまして3,920万5,000円の減額となっております。主な要因ですが、その3行下の消耗品費の2,189万3,000円、これが昨年度と比較しまして1,480万6,000円の減となっております。2025年度は、消防団員の夏用の活動服の購入費用で、2か年事業の2年目として豊岡消防団、竹野消防団、但東消防団の夏用活動服1,000着の予算を計上しておりましたが、2026年度は、防火衣と防火帽、それから防火手袋の年次更新という形になっておりまして、更新の品目を変更いたしました。その関係で、消防団の活動装備品の経費が減額となったことによるものです。

また、あわせまして、その13行下の投資委託料が161万7,000円減の571万8,000円、その6行下の整備工事費が4,735万4,000円減の3,661万1,000円、また、その2行下の解体工事費が433万1,000円減の160万3,000円となっております。これらは消防車庫の更新に係る経費ですが、更新箇所は前年度と同様の2か所ですが、整備する車庫の規模が2025年度と比較して小さいため、関連経費が大きく減額に転じたということです。

また、他方で、その2行下の事業用備品が3,026万1,000円増の8,962万8,000円となっております。これは更新計画に基づきまして、

消防ポンプ車3台と小型動力ポンプ3台の更新に係る経費で、2025年度より消防ポンプ車1台多く更新する予定としておりますけれども、先ほど説明しました活動装備品や消防車庫の更新に係る経費の減額のほうが大きく、トータルしまして、非常備消防事業費全体としては減額となっているということです。

続きまして、同じく263ページの下段、下から6行目、防火水槽整備事業費です。予算額は125万9,000円で、2025年度と比較しまして1,484万1,000円の減額となっております。主な要因としましては、2026年度は整備工事を行う予定がなく、修繕箇所2か所での対応となるため、大きく減額となっております。

また、同じく263ページの下段、下から3行目、消火栓管理費です。予算額は2,378万3,000円で、2025年度と比較しまして928万9,000円の減額となっております。主な要因としましては、こちらは水道管の布設替えに伴う消火栓本体の更新に係る水道事業会計への負担金となっておりますが、2025年度と比較しまして、更新する消火栓本体が2路線9基分減少したということで、2026年度減額となっております。

続きまして、265ページをご覧ください。下段の上から10行目、災害対策事業費についてです。その中で、下から5行目、負担金の被災者支援システム管理運営協議会で、398万8,000円を計上しております。こちらは、2026年度の主要事業の一つで、被災者支援システムの導入に係る経費の一部となっております。全体事業費は、負担金の上の行にあります庁用備品22万7,000円と、普通旅費の一部2万2,000円を合わせました423万7,000円となります。兵庫県と県内市町で家屋被害認定調査業務やり災証明書の発行業務等に関する県下での統一したシステムを導入する予定としております。このシステムの導入によって、被災市民に係る災証明発行の迅速化とともに、県内の市町が大規模災害で被災した場合においても、県内市町の職員が当該システムのノウハウを持ち

合わせることができる、そういうことでまた市町相互の災害応援ですとか、受援にも有効であると考えております。

同じく、265ページ、下から2行目、防災行政無線管理費についてです。予算額は5,192万円となっており、2025年度と比較しまして、4,277万9,000円の減額となっております。主な要因としましては、次のページ、267ページの上から11行目、業務委託料の減額にございまして、2025年度は、防災行政無線設備の運用から5年目の機器更新の推奨時期であったということで、音声情報を処理する本体機器等の大がかりな更新作業を行ってきましたけれども、2026年度は、停電時においても電力供給ができる直流電源装置の電池交換が推奨時期となっております、その費用のみの計上となりますので、昨年度と比較しますと大きく減額となっております。

続きまして、人件費について少し説明させていただきます。261ページ、ちょっと戻っていただきまして、そちらをご覧ください。説明欄の一番下の欄の上から12行目、時間外勤務手当についてです。予算額439万8,000円のうち、危機管理課分は193万3,000円、773時間分となっております。2025年度と比較しまして244時間、61万円の増となっております。こちらは、主に危機管理係が従事しています啓発事業や補助金事業、訓練実施や、主に県との調整事務などへの時間外勤務が増大していることが一つ影響しております。また、2022年度から係員が1名減となつて以降、通常業務の実施においても慢性的な人員不足が続いているのが現状です。例年9月補正で時間外勤務手当を増額しているということもありまして、2026年度は実情に合わせた時間数とさせていただいております。

最後に、歳入についてです。77ページをご覧ください。説明欄の下から4つ目の欄、消防防災施設整備事業債です。そのうち、危機管理課分につきましては、消防ポンプ自動車の1億6,390万円のうち8,940万円と、それから消火栓の1,20

0万円、それから消防団施設分の4,380万円となつてまして、合計で1億4,520万円となっております。2025年度と比較しますと、合計で3,730万円の減額となっておりますが、2026年度は、防火水槽の新設工事がないこと、また、消火栓の新設改良の本数が少ないこと、それから消防車庫の整備費用が減額したことなどが要因となっております。

また、同じ欄の下から3行目、消防防災設備整備事業債についてですが、危機管理課分はデジタル防災行政無線分が該当しておりまして、こちらも2025年度と比較しますと4,000万円の減額となっております。こちらも歳出で説明しましたとおり、防災行政無線の設備更新業務に係る費用が低減したことが要因となっております。

危機管理課からの説明は以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 税務課、塚本課長、どうぞ。

○税務課長（塚本 尚見） 歳出の新規業務からご説明いたします。137ページをご覧ください。上段の賦課徴収事務費です。その中段にあります業務委託料につきまして、固定資産情報更新業務についてです。固定資産情報検索システム登載写真更新業務1,258万7,000円です。これにつきましては、現在利用している情報検索システムに登載している令和2年撮影の航空写真データを最新の衛星写真データに更新するものとなります。システム設定業務につきましては、3項目ございます。地方税共同機構のeLTAXシステムの更改対応に係る個人住民税の申告支援システム改修業務104万5,000円、個人住民税の令和8年度実施の税制改正対応業務に係る基幹システム改修業務878万5,000円、令和8年度実施の税制改正対応に係るコンビニ交付システム改修業務356万4,000円、以上が主な新規業務となります。

次に、歳入についてご説明いたします。14ページをご覧ください。一番上の欄、市税につきまして、総額99億3,970万3,000円を計上しております。前年度と比較して、2億978万円の増額、

2. 1%の増になっております。

次に、18ページをご覧ください。主な増減率について説明させていただきます。一番上の個人市民税につきましては、前年度当初予算との比較は3.0%の増です。令和7年度においては、12月補正で増額補正を行っており、その補正予算後の額を基に令和8年度実施の税制改正による減額を見込んだものとなっております。

法人市民税につきましては3.5%の増、固定資産税につきましては2.4%の増です。これにつきましては、令和7年度に償却資産分において増額があり、この額を基に見込んだものとなっております。

軽自動車税については1.5%の減、市たばこ税につきましては年々減少しており、今回、3.6%の減と見込んでおります。

税務課からは以上です。

○委員長（芹澤 正志） 続いて、城崎振興局地域振興課、木村課長、どうぞ。

○城崎振興局地域振興課長（木村 弥江） それでは、111ページをお開きください。2枠目、城崎振興局庁舎管理費についてです。次年度は、庁舎の改修など特別なものはなく、通常の維持管理経費となっており、前年度と大きく変わりはございません。

次に、同じ枠、真ん中辺り、自動車管理費です。自動車管理費につきましては、振興局管理公用車5台に係る管理費です。前年度比約12万円の減額となっています。

次に、歳入について説明いたします。前に戻っていただきまして、71ページをお開きください。よろしいでしょうか。雑入の枠、上から2行目、光熱水費等使用者負担金の中で、真ん中辺りに城崎庁舎があると思います。ご覧いただけますでしょうか。21万1,000円は、城崎庁舎に入居されました豊岡市商工会城崎支部並びに豊岡市社会福祉協議会城崎支所にご負担いただくものです。

城崎振興局からは以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 竹野振興局地域振興課、小林課長、どうぞ。

○竹野振興局地域振興課長（小林 昌弘） それでは、

111ページをお開きください。一番下の枠、竹野振興局の庁舎管理費です。通常の維持管理経費は省略をさせていただき、次年度特別なものとしましては、竣工から25年が経過している竹野庁舎について、エレベーター、また電気設備の中核となっている中央監視盤及び非常用放送設備の更新をするべく、説明欄下から7行目の投資委託料として、設計監理委託料346万5,000円及び、113ページ、一番上の保守工事費として改修工事費3,657万8,000円を計上しております。

次に、その下、自動車管理費につきましては、振興局管理公用車5台の管理費となっております。前年度とほぼ変わりはございません。

次に、歳入について説明いたします。戻っていただきまして、75ページをお開きください。下の枠の一番上、総務債のうち上から4行目、庁舎整備事業債の竹野庁舎1,600万円は、先ほど説明いたしました竹野庁舎のエレベーター等の改修に伴う委託料及び工事費に係るものとなります。

最後に、第3表、地方債についてです。10ページをご覧ください。上から4行目の庁舎整備事業債の竹野庁舎1,600万円は、ただいま説明いたしました市債に当たるものとなります。

竹野振興局からは以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 日高振興局地域振興課、吉田課長、どうぞ。

○日高振興局地域振興課長（吉田 政明） 予算書の113ページをご覧ください。説明欄、2つ目の枠、日高振興局費の庁舎管理費です。日高庁舎脱炭素化等改修工事が昨年度に完成したことから令和8年度は通常予算となっておりますが、電気料金を含む光熱水費について、照明のLED化や高効率空調機等の整備を踏まえ、昨年度より約1割減の470万7,000円としております。

次に、同じ枠の真ん中辺り、自動車管理費です。日高振興局が所管する9台の公用車に係る管理費になります。

次に、歳入です。69ページをご覧ください。真ん中より下の工事費負担金、日高庁舎47万9,0

00円ですが、昨年度実施しました日高庁舎脱炭素化等改修工事に係る豊岡市商工会の負担分となります。なお、この負担金は、令和7年度から15年間の分割払いとなっております。

次に、71ページをご覧ください。上から5行目、光熱水費等使用者負担金、日高庁舎146万6,000円ですが、庁舎に入居しております豊岡市商工会等の光熱水費負担分を計上しております。

説明は以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 出石振興局地域振興課、三宅課長、どうぞ。

○出石振興局地域振興課長（三宅 徹） それでは、129ページをご覧ください。真ん中辺り、出石永楽館歌舞伎開催事業について説明いたします。総額で9,737万円を計上しており、2025年度当初予算と比較して1,474万3,000円の増額となっております。増額の主な要因は、2025年度は6日間、11回公演で実施いたしましたが、できるだけ入場料で開催費用が賄えるようにするため、2026年度は8日間、15回公演として公演日数を2日間延ばしたことによるものです。なお、開催期間は11月4日水曜日から11日水曜日を予定しています。

次に、295ページをご覧ください。真ん中辺り、伝統的建造物群保存地区保存事業費、いわゆる伝建事業です。総額で2,395万5,000円を計上しており、2025年度と比較して883万8,000円の減額となっております。減額の主な要因は、2025年度は豊岡市伝統的建造物群保存地区防災計画に基づく防災事業を行いました、この事業が完了したため、その分減額しているためです。例年行っております伝統的建造物群基盤強化事業の内容につきましては、伝統的建造物の修理2件と、伝統的建造物ではない建物を歴史的な町並みに調和させる工事であります修景事業1件の合計3件で2025年度と同じ件数です。

続きまして、歳入についてご説明いたします。41ページをご覧ください。まずは、伝建事業に係るものです。上から5枠目の上から3つ目、重要伝統

的建造物群保存地区保存修理費補助金1,110万円は、先ほどご説明申し上げました伝建修理修景事業3件に対する国庫補助金で、補助率は2分の1です。

次に、55ページをご覧ください。一番下の枠の上から3つ目、重要伝統的建造物群保存地区保存修理費補助金555万円は、同じ伝建事業に対する県補助金で、補助率は4分の1です。

次に、永楽館歌舞伎開催事業に係る主な歳入を説明します。61ページをご覧ください。上から2番目の枠、総務管理費寄附金の2つ目の項目、ふるさと応援寄附金の17億円のうち100万円は、永楽館歌舞伎開催事業に対するガバメントクラウドファンディングの寄附金として計上しています。また、その下の企業版ふるさと応援寄附金2,200万円のうち200万円は、同じく永楽館歌舞伎開催事業に対する企業からの寄附金として計上しています。

次に、73ページをご覧ください。下から8項目め、市民会館等入場料の永楽館の7,097万4,000円は、永楽館歌舞伎チケット販売収入です。公演期間を2025年度の6日間から、2026年度は8日間に延ばすことを先ほども申し上げましたが、このことにより、1,915万8,000円の増額を見込んでおります。

最後に、戻りまして恐縮ですが、62ページをご覧ください。一番上の枠の中の13、地域振興基金繰入金18億7,114万2,000円のうち1,900万円を永楽館歌舞伎開催事業費に充てさせていただいています。この金額は、2025年度と比較いたしまして600万円の減となっております。

私からは以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 但東振興局地域振興課、大岸課長、どうぞ。

○但東振興局地域振興課長（大岸 勝也） 最初に歳出を説明いたします。115ページをお開きください。説明欄の2段目が但東振興局分となります。大きな変動があったもののみ説明をさせていただきます。光熱水費ですが、539万1,000円を計上しております。昨年の602万6,000円より

112万円減額いたしております。電気使用料の精査による減額です。

3行後ろの業務委託料です。庁舎の宿日直委託料、清掃委託料、除雪委託料ですが、人件費の高騰により昨年より30万1,000円増額し、567万1,000円を計上いたしております。

その下の自動車管理費ですが、振興局5台分の管理費で大きな変動はございません。

次に、117ページをお開きください。一番上の段、但東振興局プロジェクト費です。5行目の業務委託料674万円のうち、但東地域公共施設あり方検討業務として170万円を計上いたしております。2025年度からの引き続きの業務で、但東庁舎を含む周辺の公共施設の在り方について、市民の声をお聞きしながら、縮充の考え方の下に検討を進めてまいりたいと思っております。

次に、289ページをお開きください。下から8行目、東井義雄の心を伝える推進事業費で47万7,000円を計上いたしております。ここ数年継続して取り組んでいる東井義雄に関する新しい文献資料の調査研究、整理、保存に係る費用、また、例年開催しております東井義雄教育塾講演会などの事業を継続して推進してまいりたいと思っております。

次に、303ページをお開きください。日本・モンゴル民族博物館の管理費ですが、博物館の管理運営に関する予算となります。管理費については大きな変動はございません。

次に、307ページをお開きください。日本・モンゴル民族博物館の事業費です。昨年12月議会でお認めいただきました開館30周年記念特別展テレビアニメ「天幕のジャードゥーガル」から読み解く、モンゴル帝国の美しき女性たち展（仮称）の委託料のほか、600万円の債務負担と、そのほか特別展等に係る消耗品などの計79万4,000円、合計679万4,000円を計上いたしております。13世紀のモンゴルを題材とした人気漫画のテレビアニメ化を好機として捉え、特別展を行うことにより、これまでのモンゴルファンのみならず、アニメファンなど幅広い客層を取り込みながら、モンゴ

ル博物館の周知、来館者増加に努めてまいりたいと思っております。

続きまして、歳入のご説明をします。31ページをお開きください。中ほどにあります日本・モンゴル民族博物館入館料です。開館30周年記念特別展の収益増加分を見込んでおります。例年190万円ほどを見込んでおりましたが、今年度は543万円と大きく増額を見込んでおります。これは、今までの特別展で一番収入があった開館25周年記念のはしもとみおの木彫り展の収入を基に積算した収入額となっております。大きな増額となっておりますが、博物館職員を中心に、但東振興局職員も一体となり、様々な関係機関にお力をお借りしながら取り組んでまいりたいと思っております。

続きまして、63ページをお開きください。上から4段目です。東井義雄遺徳顕彰基金繰入金で47万7,000円を計上しています。こちらは先ほど歳出でご説明しました東井義雄の心を伝える推進事業費の財源として、基金からの繰入れを行うものです。

以上で説明を終わります。

○分科会長（芹澤 正志） 消防本部、中地部参事、どうぞ。

○消防本部参事（中地 修） 256、257ページをお開きください。常備消防費の歳出についてご説明を申し上げます。

初めに、人件費につきましては、人件費の8行下になります会計年度任用職員（フルタイム）517万5,000円につきましては、定年引上げに伴います定年前再任用短時間職員勤務2名の人件費となっております。

次に、258ページ、259ページをお開きください。259ページの下段の救助活動事業費についてでございます。前年度と比較しまして79万9,000円を増額し、291万9,000円を計上しております。主なものとしたしまして、事業用備品につきましては、高所作業時に使用しますフルハーネス型墜落制止用器具を更新するため、128万7,000円を計上しております。

次に、同ページ下の消防装備管理費についてです。前現年度から4,163万3,000円を増額し、6,130万円を計上しております。

261262ページをご覧ください。そのうち修繕料につきまして、前現年度から4,263万円を増額し、5,184万円を計上しております。主なものといたしましては、整備から12年経過します豊岡消防署35メートル級はしご付消防自動車のオーバーホールを行うために、4,475万円を計上しております。

次に、同ページの情報通信設備管理費につきまして、前年度と比較しまして1億1,677万円を増額し、2億2,236万9,000円を計上しております。内訳といたしましては、下段から11行目にあります投資委託料におきまして、高機能消防指令センター整備から5年を経過します消防指令システムのうち、情報系部分の更新を行うために1億7,765万円、また、設置から10年が経過します港、大岡山、郷路岳の消防救急デジタル無線基地局の非常用発電設備の消耗品の交換を行うために1,210万円、また、港無線基地局の直流電源装置の警報基盤の更新を行うために143万円を計上しております。

続きまして、262ページ、263ページをお開きください。263ページの下段にあります消防施設費、豊岡消防署消防設備・施設整備事業費につきましては、消防施設整備計画に基づきまして、配備後15年を経過しました豊岡消防署配備の消防ポンプ自動車を更新するものでございます。計上額は7,484万5,000円でございます。

続きまして、264、265ページをお開きください。265ページの上段にあります日高分署消防設備・施設整備事業費につきましては、昭和59年建築の日高分署の庁舎につきまして、建物の耐久性を改善し、消防活動に必要な機能を維持していくために改修を行うものでございます。2026年度につきましては、改修設計業務を行うために561万円を計上しております。

続きまして、歳入についてご説明申し上げます。

68、69ページをお開きください。69ページ、上から2行目、他会計負担分消耗品等のうち、53万6,000円が消防本部関係分となっております。これは、令和8年度北海道で開催予定とされています緊急消防援助隊訓練に係ります乗船運賃、通行料、燃料費となっております。

続きまして、76ページ、77ページをお開きください。77ページ、下から4枠目、消防債の消防本部分でございます。消防防災施設整備事業債の事業名、消防ポンプ自動車のうち、消防本部関係分7,450万円が先ほど説明を申し上げました豊岡消防署消防ポンプ自動車更新に係ります市債でございます。同じく、3行下の日高分署につきましても、先ほど歳出でご説明させていただきました事業に係ります市債でございます。

次に、消防防災設備整備事業債の2行目、消防指令センターの1億3,320万円につきましては、先ほどご説明申し上げました高機能消防指令センター情報系部分更新事業に係ります市債でございます。

なお、市債の種類についてでございますが、消防ポンプ自動車につきましては、緊急防災減災事業債を、日高分署につきましては、緊急防災・減災事業債と脱炭素化推進事業債を、消防指令センターにつきましては、防災対策事業債を予定しております。

消防本部の説明は以上でございます。

○分科会長（芹澤 正志） 選管監査事務局、中奥局長、どうぞ。

○選管監査事務局長（中奥 実） 令和9年4月に執行予定の県議会議員選挙に係る予算について説明させていただきます。

この県議会議員選挙は、令和9年4月29日に任期満了を迎えるため執行されるもので、令和8年度については、選挙準備に係る経費を要求するものです。

それでは、予算書141ページをご覧ください。中段、県議会議員選挙費です。説明欄の人件費は、会計年度任用職員報酬として、選挙事務補助員2人分の報酬です。その下、選挙管理委員会事務局とあ

る消耗品費などですが、事務用消耗品や啓発チラシ、入場整理券等の郵便料を計上しております。この県議会議員選挙費の事務等に要する経費は合計で506万1,000円で、これに人事課所管分の時間外手当の人件費を加えますと、この選挙に要する令和8年度分の費用としましては、同額で567万7,000円となります。

次に、歳入です。57ページをご覧ください。2項目め、上から2行目、兵庫県議会議員選挙事務委託金567万7,000円は、県からの委託金となります。

選管監査事務局からは以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 説明は終わりました。

既に説明を終えておりますので、これから質疑に入ります。質疑はありませんか。

須山委員。

○委員（須山 泰一） 最後にあった県議選の予算は、これはどういう想定で行われてるのでしょうか。例えば、議論になってます投票時間のこととか、そういうことについてはどういうふうなあれでしょうか。

○分科会長（芹澤 正志） 中奥局長。

○選管監査事務局長（中奥 実） 投票時間については、今までどおり8時ということで予定をしております。

○分科会長（芹澤 正志） 須山委員。

○委員（須山 泰一） そうですね、いろんな考え方があると思いますが、できるだけ、あっ、それこそ香美町や新温泉町との関わりもあるんですね、県議選の場合は。また僕らも意見出していきたいと思うんですけど、できるだけ参政権がきちんと、選挙権がきちんと保障されるようにお願いしたいと思います。

ほかにもいいですか。

○分科会長（芹澤 正志） はい、どうぞ。

○委員（須山 泰一） 危機管理課でしたか、慢性的な人員不足というのは言われたと思うんですけど、もう一度、どういう部署が慢性的な人員不足になってるんですか。

○分科会長（芹澤 正志） 松岡課長。

○危機管理課長（松岡 久雄） 今、ご指摘の部署は、先ほども少し説明をさせていただきましたけれども、危機管理課の中の危機管理係。消防係と危機管理係、2つの係で今構成しておりまして、危機管理係が従事します啓発事業ですとか、地区等への補助金事業も持ってますし、訓練の実施ですとか、特に県との事務調整もかなり多くありまして、そういったところの普通の平時だけの勤務時間では到底処理できない事務量があります。それを時間外もしてやってるんですけども、先ほど申し上げたとおり、2022年度から、理由は分からないですけど1名減になっておりまして、今は、私、課長で、課長補佐1人、危機管理係長1人の係員1人、実質、危機管理の分野を携わってるのは、この4人でやってます。ですので、到底間に合っていない状態がずっと続いてまして、時間外をせざるを得ないという状況があります。

それで輪をかけて、ここの時間外には入りませんが、当然天気が悪くなれば、それで連動して事務はもう膨大に増えていきますので、そういったところもびくびくしながら、日常業務についても兵庫県は3つの課が防災関係としてあり、それを一手に引き受けてますので、どうしてもオーバーワークにならざるを得ないということです。これは人事にも言ってるのですが、なかなか難しく、この状況が続いています。以上です。

○分科会長（芹澤 正志） 須山委員。

○委員（須山 泰一） どうしたもんですかね。何とか人事のほうは、ほんま、ちゃんとしてほしいですよ。どう思われますか。

それだけはっきりとね、不足してると言われるんだから、これ何とかしてほしいですけど、ここに担当の人事の方いないでしょうし、はい、分かりました。お疲れさまです。

○分科会長（芹澤 正志） ほかに。

青柳委員。

○委員（青柳 順子） 265ページの危機管理課さんの、小さいことで大変恐縮なんですけれども、防

災支援員って何をなさる方でしょうか。会計年度任用職員の報酬で45万円ついてるんですけども。

○分科会長（芹澤 正志） 松岡課長。

○危機管理課長（松岡 久雄） こちらは、具体的にいいますと、例えば、OBの職員さんとかで、実際に災害対策本部ですとかその地域で本部を立ち上げたときに、ノウハウ等持っておられますので、そのときに来ていただいてお力をお借りします。5月の防災訓練のときには、各振興局でもこの防災支援員さんにも呼びかけて、一緒に訓練していただくということがありますので、当初予算の中では、訓練だけを想定して計上しています。もしこれが例えば災害とかになってきますと、また別途予算要求するということになりますが、一応、当初予算ではそういう考え方です。以上です。

○委員（青柳 順子） 分かりました。

○分科会長（芹澤 正志） よろしいですか。

その他ございませんか。

それでは、質疑を打ち切ります。

ここで、委員の皆さん、当局職員の皆さんから、何かありましたらご発言願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（芹澤 正志） 特にないようですので、ここで分科会を暫時休憩します。

皆さんには、もう少しお時間をいただきまして、当委員会の午後の部の職員の中に長年の勤めを終えられまして、今年度末をもって退職される方、あるいは今年度末に役職定年を迎えられる方が合わせて2名いらっしゃいます。

井崎消防長と田中消防本部参事、一言ずつご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いします。

○消防長（井崎 博之） 私がこの委員会に初めて出席をさせていただいたのは、ちょうど5年前、総務課長としてこの場に來させていただきました。以来、予算、それから事務概要等、多数にわたって委員の皆様にはご審議をいただきました。本当にありがとうございました。

本市におきましても、少子高齢化、また人口の減少というのが毎年少しずつ進展をしているような

状況だと思っております。そういった中、消防需要というのは、救急件数は増加傾向、また、火災救助については、若干の波はあるものの、おおむね横ばい状況というようなことでございます。

よって、消防需要っていうのは、人口に比例することなく今後も今の状況で推移していくんだろうなというふうに思っています。引き続き、消防本部、消防行政にご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたしたいというふうに思います。

それと、4月からはこの場所にまた新たな職員が来ることになります。何分消防職員というのは口下手でシャイな人間が、私を筆頭に多いですので、どうか皆様方の寛大な心と優しい言葉で支えていただけたらと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

長い間ありがとうございました。（拍手）

○消防本部参事（田中 陽一） 皆さん、3年間、大変お世話になりました。私、地元の高校を卒業して、42年間、警防一筋でやってまいりました。そんな中で、先ほどお話をされた消防長とは同級生で、消防長は救助の分野で、私は救急の分野で互いに現場で協力し合いながらやってきました。そして、この最後の3年間にまた消防長と一緒に長年やってきたこの警防課、警防の業務のことを皆様にお伝えできたことは、大変私にとって光栄な時間でした。本当にありがとうございました。お世話になりました。（拍手）

○分科会長（芹澤 正志） 退職をされます方々のますますのご健勝をお祈りしております。

皆さん、退職されます方にいま一度盛大な拍手を。（拍手）

それでは、当局の皆さんは、ご退席いただいて結構でございます。お疲れさまでした。

午後1時46分 分科会休憩

午後1時51分 分科会再開

○分科会長（芹澤 正志） それでは、休憩前に引き続き、分科会を再開します。

第26号議案の審査につきましては、先ほど質疑

まで終わりましたので、これより賛否の確認に入ります。

本件につきまして、賛成とする方は挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

○分科会長（芹澤 正志） ありがとうございます。

それでは、賛成としない理由を須山委員、よろしくをお願いします。

○委員（須山 泰一） そうですね、ここで反対討論はせんでええということなんで、予算決算までにもうちょっと吟味しますけど、取りあえずはつきりした超過課税です。以上。

○分科会長（芹澤 正志） 超過課税についてですね。

それでは、ほかには大丈夫ですね。

それでは、分科会を暫時休憩します。

午後 1 時 5 2 分 分科会休憩

午後 1 時 5 2 分 委員会再開

○委員長（芹澤 正志） 委員会を再開します。

これより、3 の協議事項、意見・要望のまとめについて、アの委員会意見・要望のまとめに入ります。

当委員会に審査を付託されました案件の本日の審査は終了しました。

ここで、委員会意見・要望として、委員長報告に付すべき内容について協議いただきたいと思います。

暫時休憩します。

午後 1 時 5 2 分 委員会休憩

午後 1 時 5 3 分 委員会再開

○委員長（芹澤 正志） それでは、再開いたします。

委員長報告についてですが、内容につきましては、正副委員長にご一任願いたいと思いますが、ご異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） ご異議なしと認め、そのように決定しました。

委員会を暫時休憩します。

午後 1 時 5 3 分 委員会休憩

午後 1 時 5 4 分 分科会再開

○分科会長（芹澤 正志） 分科会を再開します。

これより、3 の協議事項、（2）の意見・要望のまとめについて、イの分科会意見・要望のまとめについて、まとめに入ります。

当分科会に審査を分担されました案件の本日の審査は終了しました。

ここで、分科会意見・要望として予算決算委員会に報告すべき内容について協議いただきたいと思います。

暫時休憩します。

午後 1 時 5 4 分 分科会休憩

午後 1 時 5 4 分 分科会再開

○分科会長（芹澤 正志） それでは、再開いたします。

分科会長報告についてでございますけれども、内容につきましては、正副分科会長にご一任願いたいと思いますが、ご異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（芹澤 正志） ご異議なしと認め、そのように決定しました。

以上で分科会を閉会いたします。

午後 1 時 5 4 分 分科会閉会

午後 1 時 5 4 分 委員会再開

○委員長（芹澤 正志） 続いて、委員会を再開いたします。

これより、（3）の閉会中の継続審査申出についてに入ります。

資料 6 ページにあります委員会重点調査事項を閉会中の継続審査事項として議長に申し出したいと思いますが、これにご異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） なしですか、はい、よろしいですか。ご異議なしと認め、そのように決定しました。

それでは、これより4のその他に入ります。

その他、委員の皆さんから何かありましたらお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） ないようですので、以上をもちまして、常任委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午後1時55分 委員会閉会
